

1  
秋冬 autumn - winter  
2016

vol.  
**19**

# 春風新聞

shumpu shimbun



春風社

Shumpusha Publishing Co., Ltd.

〒220-0044

横浜市西区紅葉ヶ丘 53

横浜市教育会館 3F

TEL (045)261-3168

FAX (045)261-3169

www.shumpu.com

✉ info@shumpu.com

【図書目録】 哲学・思想・宗教 4 / 文芸評論 5 / 文学 6 / 写真・音楽・芸術 6 / 詩歌・俳句 7 / 観光 8 / 環境・自然・健康 8 / 横浜市立大学新叢書 8 / 立教大学人文叢書 8  
東洋英和女学院大学社会科学叢書 8 / 総記・辞典・事典 8 / 言語 9 / 心理 9 / 教育 9 / 政治・経済 10 / 社会・歴史 10 / 人類学 12 / シリーズ来たるべき人類学 12  
【連載】 日々の風 暮らしのなかの哲学 長谷川宏 4 / 翻訳ピンチ! 中条省平 6 / 帰ってきた mini 大河 しがらみ 7 / 英文学にデコピン 阿部公彦 8 / ポストモダンの処方箋 白井聡 10  
【コラム】 自著を語る 5 / 横浜 9 / 本屋に行こう 11



そもそも  
仰も真に活きたる希望は、  
人々自ら造るべきものにして、  
他人よりこれ与へらるべきものに  
非ざるなり。

ことば：『新井奥遼著作集』第2巻 201 頁より

写真：塙絃『利根川を往く』（春風社、2016年）123 頁より

講演・対談

# 桂川潤 × 三浦衛

## 「本は物である」考

### 「本」とは何か

桂川 「大辞林」で「本」を引いてみると、「書物、書籍」とあります。では「書物」を見てみると、「本、書籍、図書」と書いてあります。「書籍」へいくと、「本、書物、図書」。だまされたみたい



に「図書」を見ると、「書籍、書物、本」……。衝撃の事実ですよね。たらい回しで定義をスルーするというのは、辞書ではやってはいけない禁じ手なんです(笑)。

出版社や装丁家は、普段何の疑問もなく本を作り本について語っていますが、「本って何だろう?」とあらためて問われると答えられない。紙の上に文字が刷られただけでは意味がなく、読まれてはじめて本の意味がある。でも、そのとき私たちがその紙を読んでいるのか、文字を読んでいるのか……。太古の本は粘土に刻まれていて、それが巻物になっ

て、現在のようないろんな形の本になった。電子書籍になるともう形自体がありません。つまり形態や素材から「本」を定義することはできないのですが、それでは何だか釈然としません。それは私たちが、「本」というものの「かたち」を、五感を通して体験しているからだと思えます。

「本をつくる」ことには二つの面があります。まず第一は、本の内容を書いてまとめる、つまり「テキストをつくる」作業。でも、もう一つ、忘れてはならないのが、テキストは印刷されて本の形にならないと

人には届かないということ。紙に印刷され、その紙が三次元の立体という「物」になつてはじめて、私たちはテキストを本として読むことができます。言いかえれば、テキストを物質化する作業、それが装丁・造本という作業です。

よく、「装丁」という仕事は一体何なの?と訊かれます。英語では「ブックデザイン」だと説明する。「でも、『本をデザインする』って一体何をデザインするんですか?」と必ず訊かれます。本の装丁は当たり前にあるものだと思うのでしようね。

ここに夏目漱石の『こころ』の初版本のレプリカがあります。本の大きさは戦前のスタンダードである菊判で、漱石自身が装幀を手がけました。それに対して、ブックデザイナーの祖父江慎さんが、袖珍本(IIポケットサイズの本)で祖父江版『心』をリメイクしました。同じテキストでも、菊判の『こころ』を

む時と、袖珍本の『心』を読む時は、読書の時空が明らかに異なつてきます。本の中身だけを知りたいなら、テキストを印刷した折丁だけあれば十分ですが、剥き出しの本文は折れたり汚れたりしてしまう。だからそれを綴じてバインダーに挟む。造本装丁の第一の役割は、本体を保護することにあるのですが、といって、外装のボール紙に「こころ 夏目漱石著」と書いてあるだけでは味気ない人間には、ちょっと他と違えたい気持ちが起こるもので、そこにブックデザインが生まれるのです。

装丁は家のようなものです。家は住む人を守ってくれるだけでなく、住む人を表し、さらには住む人の内面まで規定してしまうものです。一度も会ったことのない人を初めて訪ねても、家の前に立ち、その家を見て行くうちに、住んでいる人の人柄や住まい方まで感じられるでしょう。

装丁の仕事をしていて、心底怖いのは、どんなにすばらしいテキストでも、読者はいきなりそのテキストに接することができないという事実です。最初に目にするのは、良くも悪くもテキストを保護し包み込む装丁です。だから、この本の内容はおもしろいよと装丁が誘ってくれないうと、どんなにいいテキストでも読まれないこともある。

現在、国内の年間の新刊点数は八万点を超え、平均すると一日二百二十冊もの本が出版されています。読者の手にとってもらうには、いろいろな工夫が必要です。だからトを象徴するweba「編む」、「テキスト」の語源もtexture、すなわち「編む」。ですから本の歴史はすべて「編む」に通じているわけですね。

紙の発明は西暦二世紀前後の中国と言われています。紙は巻物となりますが、その構造は簀の子状の竹筒・木筒と同一です。巻物はコンパクトなのはいいのですが、読みたいところをすぐ読むことができない。これを工夫したのが折本です。巻物を蛇腹に折っていくと、好きなところで開ける。しかし折り目から破れていくという欠点がある。そこで生まれたのが糸綴じ本でした。一枚の紙を半分折り、穴を開けて糸で綴じる。いわゆる和装本の形式です。

### 装丁の二つの役割

装丁は家のようなものです。家は住む人を守ってくれるだけでなく、住む人を表し、さらには住む人の内面まで規定してしまうものです。一度も会ったことのない人を初めて訪ねても、家の前に立ち、その家を見て行くうちに、住んでいる人の人柄や住まい方まで感じられるでしょう。

装丁の仕事をしていて、心底怖いのは、どんなにすばらしいテキストでも、読者はいきなりそのテキストに接することができないという事実です。最初に目にするのは、良くも悪くもテキストを保護し包み込む装丁です。だから、この本の内容はおもしろいよと装丁が誘ってくれないうと、どんなにいいテキストでも読まれないこともある。

現在、国内の年間の新刊点数は八万点を超え、平均すると一日二百二十冊もの本が出版されています。読者の手にとってもらうには、いろいろな工夫が必要です。だからトを象徴するweba「編む」、「テキスト」の語源もtexture、すなわち「編む」。ですから本の歴史はすべて「編む」に通じているわけですね。

紙の発明は西暦二世紀前後の中国と言われています。紙は巻物となりますが、その構造は簀の子状の竹筒・木筒と同一です。巻物はコンパクトなのはいいのですが、読みたいところをすぐ読むことができない。これを工夫したのが折本です。巻物を蛇腹に折っていくと、好きなところで開ける。しかし折り目から破れていくという欠点がある。そこで生まれたのが糸綴じ本でした。一枚の紙を半分折り、穴を開けて糸で綴じる。いわゆる和装本の形式です。

紙の発明は西暦二世紀前後の中国と言われています。紙は巻物となりますが、その構造は簀の子状の竹筒・木筒と同一です。巻物はコンパクトなのはいいのですが、読みたいところをすぐ読むことができない。これを工夫したのが折本です。巻物を蛇腹に折っていくと、好きなところで開ける。しかし折り目から破れていくという欠点がある。そこで生まれたのが糸綴じ本でした。一枚の紙を半分折り、穴を開けて糸で綴じる。いわゆる和装本の形式です。

### 本の歴史と聖書

東洋の本の起源は、貝多羅というヤシ科の植物に、鋭利なものでお経を刻み、墨を擦り込んだものです。中国ではいわゆる竹筒・木筒。最初は短冊状の一片に文を書いたのですが、それでは足りなくなつて木筒を糸で編んで簀の子にしました。韓国では本のことを「チェク」(冊)といいますが、漢字の「冊」は糸で木筒を編んだ形です。編集の「編」も、甲骨文では糸編と冊を並べた字形で、糸で木筒を編むことを示しています。面白いことにインターネット

に収めようという、驚くべき企てが起こつたのです。注目すべきことは、聖書が一冊の本にまとめられたことによつて、初めて初期キリスト教と初期教会が確立されたということです。さらに大事なことは、「編集」という概念の登場です。聖書の各文書は一つ一つがばらばらの書物(巻物)でしたが、これらを一まとめにして一冊の本にするためにはテキストの順番を考えなきゃいけない。否が応でも編集という視点が生まれます。同時にその内容を吟味する神学的理論と書誌学的研究、そして本文批評のための校訂作業が必須となります。キリスト教が確立されたのは、造本装丁が確立されたからとも言つても、けつして過言ではありません。だから、聖書のことを「The Book」本の中心の本」と呼ぶのです。

時代がたつにつれ、装丁は高度に装飾的なものになります。写本の本文組にも編集的なテクニックが使われ、十六世紀になると、今でも最高の装丁の一つとされるジャン・グロリエの装丁本などが出てきます。グリーテンベルクが活字を生み出す前は、出版はすべて手書きの写本によつていましたが、活字の登場以降は、写本では対応し得ない巨大なマーケットを想定して本をつくることのできるようになりました。

活版印刷術は、中国で活動していた米国人宣教師を通して、明治二一年に日本へ伝えられました。その当時の日本には、活字はもちろん洋紙も印刷機もない。活版印刷のインフラをゼロから築き上げていったわけです。しかし、その発展は直線的に進んだわけではなく、有名な『新体詩抄』は、それまでの漢詩に変わる新しい文語定型詩「新体」による詩の革新を目指した書物でしたが、デザインは旧態依然、いわゆる和装本でした。一度は活字で組まれたのですが、うまくいかず、途中から昔ながらの整版に戻つてしまつた。明

治十五年頃のことです。そんな中、独創的なブックデザイナーを切り開いたのが、漱石の『吾輩は猫である』です。漱石は意中の画家や装丁家を集め、アートディレクターとして理想の造本装丁を実現しました。本文は「アンカット本」。ペーパーナイフで断裁されていない折丁を切りながら読み進むものです。上中下、どの巻も洋風のジャケットを開いてみると、漱石の中国趣味を反映した表紙に、ガラリと雰囲気が変わります。

大正三年の『こころ』は、漱石みずから装幀を施した本です。背にひらがなで『こころ』とありますが、表紙のヒラには漢字の『心』、函には「みぎのて」を示す「又」の字に縦棒一本を加えた不思議な文字。「こころ」なのでしょうが、辞書にはない字で、漱石の独創でしょうか。扉には心臓の象形である「心」の甲骨文を載せている。これほどいくつもの異なった表記の書名が使われるなんて今日では考えられないことですが、おそらく漱石は心という言葉葉の一つの字に限定したくなかつた。つまり変転する『こころ』という書

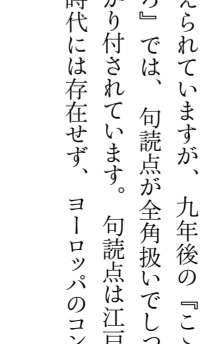
名そのものが、漱石の作品への思いを反映しているように思われます。ところで『吾輩は猫である』の本文では、句読点が付け足し程度に添えられていますが、九年後の『こころ』では、句読点が全角扱いでしっかり付けられています。句読点は江戸時代には存在せず、ヨーロッパのコン

漱石が切り開いた装丁

活版印刷術は、中国で活動していた米国人宣教師を通して、明治二一年に日本へ伝えられました。その当時の日本には、活字はもちろん洋紙も印刷機もない。活版印刷のインフラをゼロから築き上げていったわけです。しかし、その発展は直線的に進んだわけではなく、有名な『新体詩抄』は、それまでの漢詩に変わる新しい文語定型詩「新体」による詩の革新を目指した書物でしたが、デザインは旧態依然、いわゆる和装本でした。一度は活字で組まれたのですが、うまくいかず、途中から昔ながらの整版に戻つてしまつた。明

治十五年頃のことです。そんな中、独創的なブックデザイナーを切り開いたのが、漱石の『吾輩は猫である』です。漱石は意中の画家や装丁家を集め、アートディレクターとして理想の造本装丁を実現しました。本文は「アンカット本」。ペーパーナイフで断裁されていない折丁を切りながら読み進むものです。上中下、どの巻も洋風のジャケットを開いてみると、漱石の中国趣味を反映した表紙に、ガラリと雰囲気が変わります。

大正三年の『こころ』は、漱石みずから装幀を施した本です。背にひらがなで『こころ』とありますが、表紙のヒラには漢字の『心』、函には「みぎのて」を示す「又」の字に縦棒一本を加えた不思議な文字。「こころ」なのでしょうが、辞書にはない字で、漱石の独創でしょうか。扉には心臓の象形である「心」の甲骨文を載せている。これほどいくつもの異なった表記の書名が使われるなんて今日では考えられないことですが、おそらく漱石は心という言葉葉の一つの字に限定したくなかつた。つまり変転する『こころ』という書



マ・ピリオドに做つて明治期に導入されたものです。大正までは句読点の用法や組み方は一定ではありませんでした。

### 書体と印刷の技術

装丁をつくる上で圧倒的に重要なのは書体です。私が手がけ、装丁で受賞した本が吉村昭さんの『歴史小説集成』（岩波書店、二〇〇九）です。どんな書体が一番ふさわしいかと考えた末、正調明朝体を選びました。日本では宋朝体、中国では做宋体と呼ばれる書体に近い、右肩上がりの明朝体の原型です。エンメント（文字の構成要素）の水平垂直がカッチリとした明朝体を使うと、何だか雰囲気がないのです。

### 做宋体

この『歴史小説集成』がどうつくられたかをお話しましょう。まずは何より大事な本文印刷。印刷の仕方はいくつかあります。凸版とは要は判子で、版の凸部分にインキをつけて押す。グラビア（凹版）印刷は逆に、版が凹んだところにインキを詰め、紙に圧着して印刷する。凸版も凹版も、たつぷりインキを盛れるのが長所ですが、版を深く彫らなければならず、大型の印刷物になると製版費用がかかり修正も大変です。今日最もよく使われるのがオフセット印刷です。水で弾くところと弾かないところをつくって、インキが水を弾かないところに付き、それを転写する印刷法です。原理的にインキが盛れないのでかつては「弱い印刷」と言われていましたが、今はかなり改良されてきました。オフセット印刷の版は薄いアルミ板で、失敗してもすぐ取り替えがきくし、非常に大きなポスターなども安価に作れるので、今では印刷の主流になっています。

カラー印刷は、藍・紅・黄・墨の四原色を掛け合わせて色再現をする四色印刷が主流ですが、二色印刷では必要なインキを直接混ぜてカスタムカラーを作る「特色印刷」と

呼ばれる方法もあります。インキを混ぜて調肉する作業は職人さんが目視でやる場所もありますが、今はほとんど全部コンピュータ制御です。『歴史小説集成』の表紙はクロス（布）にヒラは型押し、背は箔押しです。箔押しは金版をつくる専門の方がいます。この本は特にクロスが厚いので、深い金版をお願いしました。クロスは芯ボールに張つて、手作業で一つ一つ箔押ししています。外函も昨今では機械函がほとんどながら、『歴史小説集成』は貼り函です。職人さんが目見当で瞬間に貼り込んでいく様子は、信じられないような職人技です。

こうして作られた各パーツが、製本所で一冊の本へとまとめ上げられます。表裏両面印刷された本文を機械で折つていきます。最初一枚の紙だつたのが、折られ、束ねられ、糸でかがられて二次元のテキストが三次元の本へと変貌していくのです。折丁の束に丸みをつける「丸み出し」も、かつては熟練の作業でしたが、今では機械が瞬時にやっています。本体と表紙が貼り合わされ、圧着されて一冊の本ができ上がります。

### 本を演出する装丁

三浦 ありがとうございました。改めて、本というのはすごい発明だと思えました。ますます誇りを持つてやらなければならぬと再確認しました。桂川さんの『本は物である―装丁という仕事』（新曜社、二〇一〇）を再読しました。ご自分の半生を「付け焼き刃の人生」とおっしゃっている。最初から装丁家になるべくしてなつたわけではないと。人生の過程で縁があつたものに没頭し、のめり込み、勉強し、いろいろなものを深く味わっていることがよくわかり、「馬には乗つてみよ、人には添うてみよ」という諺を思い出しました。フットワークが軽く、興味・関心を持ったときにパツとそこへ赴き、そこで心と体をひらくという吸収力

の強さを感じました。この本の中に、装丁家が生業として装丁するほかに編集者が装丁する本もあるという話が出てきます。そこで、まことに恥ずかしいのですが僕がかつて装丁したものを披露させていただきます。まずは『新井奥達著作集』。茶色で網がかかったカバーですが、これは東急ハンズでスクリーントーンを買つてきて、このように仕上げられて印刷所に頼みました。『明治のスイーデンボルグ―奥達・有礼・正造をつなぐもの』（二〇〇一）は、原稿を読んだとき、土や木、風、緑という自然の息吹を感じたので、そういう風合いを出したいと思い、東急ハンズで今度は板を買つてきて、それをコピーして使いました。好評だつたので、次は何をコピーしようかと企み（笑）。次が『アジアの瘤ネパールの瘤―ヨード欠乏症への医学的・社会的挑戦』（二〇〇三）です。装丁は僕のアイデアをもとに画家の武田尋善さんをお願いしました。チベットやネパールではまだ風土病としてヨード欠乏症があり、欠乏症になると瘤ができる。食品として昆布などの海藻が効くというので、カバーは昆布のコピーを加工してつくつたものです。素人の浅知恵による装丁ですが、テキストを精読し、そのおもしろさをどんなふうに演出しようかという愛情にかけてはプロの装丁家と一緒だと思います。

### 装丁はこうして生まれる

三浦 桂川さんが装丁してくださつた春風社の本をご紹介します。まずは浅井重紀子先生の『天馬山―北朝鮮からの引揚げ者の語り』（二〇一六）。原資料の中の「天馬山」という字体にとても力があると感じ、編集担当の山岸から桂川さんに伝えてもらいました。

桂川 私もこの「天馬山」の字がとてもいいと思いました。ではこの字をどう使うか。小さく使つてはどうしようもないけれど、あまり大きく使つても品がなくなる。さらにこの字を活かすために、他に何を組み合わせるか。「天馬山」というタイトルだけを見て何の本かわかる人はまづいないでしょう。とすると、「北朝鮮からの引揚げ者の語り」というサブタイトルをかなり大きく扱う必要があります。

私が特に大事にするのは、最初に本を手にとつた時、どういう「色」を感じるかということです。表紙を開けば、見返しと扉があつて本の中に入つていく。装丁家はそういう一連の流れとともに「色」を考えるんです。字はどう置くか、帯を巻いたときその色はどうなるのか。持つたときの感じはどうか。写真をどうレイアウトするか。色数は多すぎず、でもサブタイトルは強くしたい……。帯と見返しを同じ紙にすると価格が安くなる、というようなことも考えながら、紙は大陸的な大地の雰囲気がある、「岩はだ」というザラザラした紙を使ってみました。

大体の場合、ジャケットは水分や汚れを避けるために表面加工しております。この本の場合はニスを引きつけています。もともとニスはあまり強くないので、一般にはポリプロピレン（PP加工と通称されます）で表面加工することが多いのですが、PPは紙の風合いを殺してしまうので、いい紙の場合はなるべくPPを使わずにニスを塗ります。『天馬山』は、箔押ししているので、コスト的にもニスだけの表面加工にとどめました。

題字に組み合わせる写真は、何点かあつたうち、物語が見えるような家族の写真を選びました。裏表紙にある学校の記念写真は、実は元の写真がちょっと右に傾いているので、写真師らしからぬミスで、傾きを直して真っ直ぐにレイアウトするべきでしょうが、この傾きには引揚者のその後の運命を感じさせるような不思議な感じがあつて、あえて傾きを補正せずにレイアウトしました。



桂川 写真集の場合は、とにかく装丁がいかに写真を邪魔しないかという点ですね。タイトルもなるべくすっきりした書体で、しかしUVニスで加工してちょっと目立たせる。橋本さんの撮られた写真がすべてです。基本的には写真に語らせるレイアウトになっています。中身も、三浦さんと橋本さんが立ち会つて写真の補正をしているので、濃密にこの写真と向き合う時間が持てました。すばらしい写真を最後にどう締めるかを考えました。

三浦 ありがとうございます。次に、橋本照高さんの写真集『石巻 2011.3.27〜2014.5.29』（二〇一四）と『新版 北上川』（二〇一五）。いかがでしょうか。桂川 写真集の場合は、とにかく装丁がいかに写真を邪魔しないかという点ですね。タイトルもなるべくすっきりした書体で、しかしUVニスで加工してちょっと目立たせる。橋本さんの撮られた写真がすべてです。基本的には写真に語らせるレイアウトになっています。中身も、三浦さんと橋本さんが立ち会つて写真の補正をしているので、濃密にこの写真と向き合う時間が持てました。すばらしい写真を最後にどう締めるかを考えました。

浅井 私の『天馬山』もそうでしたが、装丁家は時間との闘いもあるのではないかと思います。どのようにやりくりされていますか。桂川 すごくシビアな問題ですね。私は年間で百二十冊くらい、多い年だと二百冊を超える本を装丁します。百二十冊といえば一年間休みなしに三日に一点ずつ入稿しなければなりません。何年もかけて著者が書きあげ、編集の人が苦労してまとめあげた本の命運を、たつた三日で決めてしまふというプレッシャーは本当に大きいです。

編集者の手による装丁は、いわば家庭料理みたいなもので、家族の個性や好みを全部わかっている。それに対して僕らプロの装丁家は、量もこなさなければいけない。プロ

の料理人は一時にお客さんが集中しても冷静にさばかなくてはならない。どんなコンディションでも、コンスタントに水準以上の結果を出し続けることが重要なんです。ものによつてはプロの料理より家庭料理のほうがずっとおいしいように、編集者がつくつた装丁にもすばらしい装丁がいくつもあります。ただ、仕事をコンスタントにこなすことがプロの装丁家としての私の存在意義です。三日に一冊どころか、極端な場合には一日二冊つくらなければいけないこともあります。ある意味、ちよつと無責任じゃないとできないんですよ。

桂川 もとの『北上川』もすばらしい装丁だと思います。本をつくつてきた方が装丁して。ただし違いを述べるとすれば、旧版では橋本照高という著者名が帯をつけると隠れてしまふ。新版では絶対に橋本さんのお名前を目立たせたほうがいいと判断しました。

三浦 桂川さんが本日の資料の中で僕の言葉を紹介してくださっています。「本づくりって砂時計みたいだね、さまざまな経験を思い、作業や労力がジワジワと一点に凝縮されて、そこから、また大きく広がっていく、それを繰り返していくのが本づくりで、本はそんな営みの結晶点なんだ」と。砂時計の中ほどのくびれたところ、あそこが「本」にあると思えます。何十年と研究をされている著者からいろいろな話を聞かせてもらい、原稿を読み、編集する一冊の本ができあがる、でもそこが終わりではなく、本ができたことで、そこから砂がサラサラと下に落ちていくようにして新しい人間関係が生み出されていく……。

本というものは人類の偉大なる発明品です。一冊の本が生まれ、新たな関係を生み出していく。ますます本はおもしろいと思えます。◆

哲学・思想・宗教



「福祉」の原点を「宗教」に見出す感動のドキュメンタリー。子どもたちを救うことに尽力してきたシスターたちの奮闘の足跡を、横浜、神戸、岡山、長崎、天草からたどる。
四六判上製・二四四頁 定価(2200円+税)
ISBN 978-4-86110-475-6



朝鮮儒学の巨匠たち
韓亨祚 (韓国学中央研究院教授) 著
片岡龍 (東北大学准教授 監・解説) 朴福美 (韓国語教室主宰) 訳
21世紀を生かすための儒教の根源を求めて。儒学の本質を「生の技術」「精神の偉大な作品(人間)」に関わる熟練した技術」ととらえる著者が、中国、日本の儒学と通底しつつ独自の発展を遂げた朝鮮儒学を、その巨匠たちの思想を辿りながら跡づける。
A5判上製・三三〇頁 定価(5500円+税)
ISBN 978-4-86110-500-5

思想家としての石橋湛山一人と時代

山口正 (石橋湛山記念財団評議員)
『石橋湛山全集』の出版に携わり、湛山の多面性と東洋経済新報社史に精通する第一人者が論じる26編。増田弘氏(石橋湛山研究学会会長)推薦!
ISBN 978-4-86110-472-5 ¥3000

但徠と崑崙 末木恭彦 (駒澤大学教授)
江戸時代を代表する儒学者・获生但徠の学問とは? 儒学の紹介・祖述にとどまらず独自の儒学を構成し、後代に多大な影響を与えた但徠と、弟子の一人である山井崑崙。二人の思想を対比的に捉えその核心に迫る。
ISBN 978-4-86110-494-7 ¥3500

哲学 はじめの歩
立正大学文学部哲学科編
わたしたち何のために生きてるんだろう? 「生きる」「私」であること「心」「行動する」の四つのテーマから考える。高校生・大学新入生のための哲学入門。四冊函入。
ISBN 978-4-86110-459-6 一刷 ¥3241

随想 西田哲学から聖霊神学へ
小野寺功 (清泉女子大学名誉教授)
キリスト教の日本への受肉を生涯のテーマにしてきた著者畢生の論考集。岩手の風土の中で育まれた少年の感性が世界の思想を受け入れ獲得してきた思索の過程を跡づける。
ISBN 978-4-86110-464-0 ¥3500

姿を変えたキリスト
みなし子を育てたシスターたち

菊地章太 (東洋大学教授)

奥達論集成

春風社編集部編
明治大正の思想家、新井奥達。各界屈指の論客による『新井奥達著作集』月報収載の珠玉の論考を一書にまとめ、その人と思想を多角的に照らし出す。
ISBN 978-4-86110-424-4 ¥2700

おうすいボケット 新井奥達語録抄 三浦衛 (春風社代表)・コールドニエル (福岡女学院大学教授)編
田中正造が「亜聖」と評し、高村光太郎が愛読した、いこの思想家。奥達。その珠玉の語録を全集より精選。
白表紙 ISBN 978-4-86110-454-1
黒表紙 ISBN 978-4-86110-455-8 各巻 ¥2200

エコ・ファンタジー—環境への感度を拡張するために
山田利明 (東洋大学教授)・河本英夫 (東洋大学教授)編
「環境」と生活感覚とのギャップはどのように埋められるのか。食料自給率、生物多様性、南方熊楠など、多彩な視点から問い、想像力を押し広げる刺激的論集。
ISBN 978-4-86110-468-8 ¥3500

絶対無と神—京都学派の哲学
小野寺功 (清泉女子大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-438-1 ¥3982

虚構の形而上学

「あること」と「ないこと」のあいだで
中村靖子 (名古屋大学教授)編
ISBN 978-4-86110-436-7 ¥3500

サルトルとマルクス—II 北見秀司 (津田塾大学教授)
ISBN 978-4-86110-213-4 / ISBN 978-4-86110-214-1 各巻 ¥3333

『方法叙説』をめぐる六つの試論—日本の思惟と西欧の思惟に介在する深淵
小林利夫 著
徳永雅 編
ISBN 978-4-86110-254-7 ¥3619

沈黙の向こう側—豊崎光二追悼集
豊崎合子 監修/石崎誠 佐久間和男、中村裕平 山規子 編
ISBN 978-4-86110-370-4 ¥3048

長谷川宏

日々の風
暮らしのなかの哲学

14 新天地での夏合宿

36年にわたって諏訪湖の近くの山奥で続けてきたわが塾の10泊11日の夏合宿だが、宿舎の老朽化のため、今年場所は移して山梨市の山奥での合宿となった。未経験の地でどう楽しい集団生活を作り上げていくか。去年までの合宿に慣れ親しんだ者にとつて、不安も小さくないが、それ以上に期待に胸のときめく新しい出発だった。
合宿を準備し運営する活動の主体は20代から30代前半にかけての若者たちで、後期高齢者のわたしはもう傍観者というに近かったが、若者たちが準備の段階から便りを排し、自分たちの手で自分たちの生活を組み立てていく方式を頑固に守ろうとしているさまには頭が下がる思いだった。風呂は去年まで使っていた3台のドラム缶を現地に運び、洗い場ともどもしかるべき場所に工夫して設置する、飯炊きは、新たにドラム缶を切っかまどに仕立て、近所の農家で借りた大釜を上に載せて一挙に50人分5キロの米を薪で炊く、といった具合だ。
宿舎は、目下休校中の小学校を借りることができたが、校舎が小さくて夜に50人分のが

とんを敷くと、ふと廊下にはみ出してあいた空間がほとんどなくなってしまう。が、夜には、幼児と小学生を寝かしつけたあと、中学生以上の参加者が全員集まってその日の問題点を逐一チェックし、明日に向けて対策を議論するリーダー会議を開かなければならない。新天地での合宿となれば、どんな問題が起こるかわからず、議論が長びくことが予想される。そこで、30人は収容できる大型のテントを購入し、校庭の片隅に設置して、そこを会議場とした。テントのなかでの議論は、予想どおり2時間近くに及んだが、外との接触がないだけに話の集中力は高まった。
新しい合宿のこととて、体力の消耗と神経の緊張が高まるだろうと、日数が10泊11日から6泊7日に短縮された。終わってみると、幼児から高齢者までの参加者の多くが新しさを加味した充実感を得られたようで、来以降の継続も可能だとの手応えを得た。わたしには、若者たちの労を厭わぬ精勤ぶり、のびのびと行事を楽しむさまが、とりわけ印象に残った。
(哲学者)

ちいさな哲学

長谷川宏 (哲学者)
ISBN 978-4-86110-192-2 ¥1800

超越する実存—人間の存在構造と言語宇宙
棚次正和 (京都府立医科大学教授)
ISBN 978-4-86110-391-9 ¥4500

横超の倫理—ロイティ、ハイエク、シンガールを超えて
谷口隆一郎 (聖学院大学教授)
ISBN 978-4-86110-393-3 ¥3333

新しい国家—海辺の別荘で教養と信仰と哲学を語り合う
W・H・マロック 著/澤井勇訳
ISBN 978-4-86110-319-3 ¥2800

聖書における愛—イエスの愛とパウロの愛

高見伊三男 (牧師/名古屋学院大学教授)
ISBN 978-4-86110-287-5 ¥2200

思想のレクイエム—加賀・能登が生んだ哲学者15人の軌跡
浅見洋 (石川県立看護大学教授)
ISBN 4-86110-068-2 ¥3500

風についての省察—絶対無の思ひつかいをもめて
松山康國 (関西学院大学名誉教授)
ISBN 4-921146-85-3 ¥3333

異教の完成者—史的イエスをめぐる謎
波多野直人 (武蔵大学教授)
ISBN 978-4-86110-351-3 ¥3500

滝沢克己を語る
三島淑臣 (九州大学名誉教授) 監修
ISBN 978-4-86110-206-6 ¥3619

〈文化〉の思想—現代日本の位置から
西欣也 (甲南大学教授)
ISBN 978-4-86110-323-0 ¥2200

河合樂治郎の社会思想体系—マルクス主義とフアンズムを超えて
青木育志 (研究者)
ISBN 978-4-86110-272-1 ¥3800

教養主義者・河合樂治郎
青木育志 (研究者)
ISBN 978-4-86110-320-9 ¥3000

ヤスパース—人間存在の哲学

吉村文男 (京都教育大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-260-8 ¥4571

犠牲と身代わり—記憶できないものをめぐって
長田陽一 (京都光華女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-275-2 ¥2200

心理臨床と脱構築の経験—〈他者〉をめぐる
長田陽一 (京都光華女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-345-2 ¥2400

小林秀雄とワイトヘンシュタイン
中村昇 (中央大学教授)
ISBN 978-4-86110-106-9 ¥2500

仮説法の倫理学—ホー・バース・ハイテッカー
村上隆夫 (群馬大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-309-4 ¥600

同一性の形而上学—映画・SF・探偵小説
村上隆夫 (群馬大学名誉教授)
ISBN 4-86110-059-3 ¥600

信仰の美學
阿部仲麻呂 (サントイオ司教)
ISBN 4-86110-028-3 ¥9500

幻想と怪奇の英文学II

増殖進化編

東雅夫 (アンソロジー、評論家)

下楠昌哉 (同志社大学教授 責任編集)

気鋭の文学者が論じた幻想文学の本格的な研究・批評の集成第2弾! ジョイス『ダブリン市民』の「姉妹」新訳や、翻訳家・平井呈一の再評価をうながす対談も収める。 四六判上製・四八〇頁 定価(3200円+税) ISBN 978-4-86110-516-6



帝国と文化

シエイクスピアから アントニオ・ネグリまで

江藤秀一 (筑波大学名誉教授 編)

シエイクスピア、アントニオ・ネグリの戯曲、サイバーパンク映画、長崎の南蛮文化、朝鮮の女性教師、イギリスの児童文学…「帝国」概念を鍵に、領域を越えて広がる文化の諸相を探る。 四六判上製・五二頁 定価(3500円+税) ISBN 978-4-86110-517-3



異文化理解とパフォーマンズ Border Crossers 松田幸子、笹山敬輔、姚紅 編著

「上演」「実践」としての「パフォーマンズ」の可能性とは。ジャンル、時代、民族、地域、言語、性を越えた地平をめざす挑戦的論集! ISBN 978-4-86110-499-2 ¥4500

パブリック圏としてのイギリス演劇

中村友紀 (関東学院大学准教授) 演劇は近代的自我の形成・個人と社会の関係性の決定に関与した。近代初期イングランドにおける演劇の役割と精神史をひもとく画期的著作。 ISBN 978-4-86110-501-2 ¥3000

ペーター・フーヘル 現代詩への軌跡

土屋洋二 (元愛知大学教授) ナチス・ドイツ、ベルリンの壁、表現主義論争…現代ドイツを代表する詩人の生涯を描いた初の本格的評伝! 社会的・思想的背景のなかでフーヘル作品を評価する。 ISBN 978-4-86110-481-7 ¥3200

神奈川ゆかりの作家たち 最賀進 (SAGAハウス代表) 多くの文豪が訪れ、暮らし、愛した神奈川。 神奈川ゆかりの文豪二十人を、代表作五編の魅惑の書き出し、ゆかりの地のエピソード、イラスト付きエッセイで紹介。 ISBN 978-4-86110-462-6 二刷 ¥1500

フロンテ小説における病いと看護

川崎明子 (駒澤大学准教授) 『嵐が丘』や『ジェーン・エア』の登場人物はなぜ病人だらけなのか? 創作行為の源泉としての「病い」と、それが本質的に伴う「語り」に着目し、新たな解釈を提示する。 ISBN 978-4-86110-427-5 ¥3500

敗戦・憂国・東京オリンピック ―三島由紀夫と戦後日本 洪潤約 (誠信女子大学校助教授) ISBN 978-4-86110-463-3 ¥3000

美しく汚れ ―アサー・マンビーとウィクトリア朝期女性労働者の表象 吉本和弘 (県立広島大学教授) ISBN 978-4-86110-442-8 ¥3000

中世英語文学II ―The Sound of Literature 菊池清明 (立教大学教授) ※本文英語 ¥7500 ISBN 978-4-86110-488-6

中世英語文学 ―その言語・文化の特質 菊池清明 (立教大学教授) ISBN 978-4-86110-428-2 ¥4500

秘密のラティガン ―戦後英国演劇のなかのトランス・メディア空間 大谷伴子 (東京学芸大学講師) ISBN 978-4-86110-448-0 二刷 ¥2700

マーガレット・オブ・ヨークの「世紀の結婚」 ―英国史劇とブルゴーニュ公国 大谷伴子 (東京学芸大学講師) ISBN 978-4-86110-419-0 ¥2700

交錯する戦争の記憶 ―占領空間の文学 黄益九 (在日コリアン研究所) ISBN 978-4-86110-422-0 ¥3300

名譽革命とイギリス文学 ―新しい言説空間の誕生 富樫剛 (フェリス学院大学教授 編) ISBN 978-4-86110-412-1 ¥3000

幻想と怪奇の英文学 東雅夫 (アンソロジー、評論家)、下楠昌哉 (同志社大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-404-6 二刷 ¥2700

ジョージ・エリオットの異文化世界 高野秀夫 (駒澤大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-395-7 ¥3333

トルストイと生きる 藤沼貴 (早稲田大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-385-8 ¥4762

戸籍の謎と丸谷才一 ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-381-0 ¥1800

ミルワード氏の英文学散歩 ―ルネッサンスから現代へ ビーター・ミルワード 編著/橋本修一 訳 ISBN 978-4-86110-167-0 ★ ¥1800

乱歩彷徨 ―なぜ読み継がれるのか 紀田順一郎 (評論家・作家) ISBN 978-4-86110-284-4 ¥1905

作品は「作者」を語る ―アラビアン・ナイトから丸谷才一まで ソーントン不破直子・内山加奈枝 編著 ISBN 978-4-86110-292-9 ¥2857

朝鮮神話の源流 ―「ハリ公主神話」と「ダンクン神話」を巡って 金香淑 (白鳥大学准教授) ISBN 978-4-86110-313-1 ¥4500

原典対照『ヘーオウルフ』読解 長谷川寛 (元日本大学教授) ISBN 978-4-86110-230-1 ¥9000

イギリス イメージ横断 ―表象と文学 要田圭治・田原光広・吉本和弘 編 ISBN 978-4-86110-278-3 ¥3333

明治大正露文化受容史 ―二葉亭四迷・相馬黒光を中心に 小林実 (十文字学園女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-219-6 ¥6476

永井荷風 ソライズムの射程 ―初期作品をめぐって 林信蔵 (京都大学非常勤講師) ISBN 978-4-86110-222-6 ¥3619

名刀中条スバババン!!! 中条省平 (学習院大学教授) ISBN 4-921146-90-X ¥2800

アントニオ・タブッキ 反復の詩学 花本知子 (京都外国語大学講師) ISBN 978-4-86110-358-2 ¥3000

Beowulf 橋本修一 (工業系大学教授) ISBN 4-86110-060-7 ★ ¥2000

カスオ・インシグロ (日本)とイギリスの間から 莊中孝之 (京都外国語短期大学准教授) ISBN 978-4-86110-255-4 ¥3000

乱読すれど乱心せず ―ヤステクがえらぶ名作50選 安原順 (スパーエディター) ISBN 4-921146-67-5 ★ ¥1800

『ヘーオウルフ』とその周辺 ―忍足欣一郎先生追悼論文集 唐澤一友 (駒澤大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-190-8 ★ ¥8000

古代歌謡と南島歌謡 ―歌の源泉を求めて 谷川健一 (民俗学者) ISBN 4-86110-058-5 ★ ¥2400

なぜ男は笹野頼子を喪れるのか 海老原暁子 (元立教女子学院短期大学教授) ISBN 978-4-86110-318-6 ¥2381

樋口一葉 物語論・言語行為論・ジェンダー 笹川洋子 (神戸親和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-348-3 ¥4000

ほくの交遊録 岡井隆 (歌人) ISBN 4-86110-044-5 ★ ¥2800

インタビュ 現代短歌 ―うた・ひと往来 及川隆彦 (短歌往来 編集長) ISBN 4-86110-066-6 ★ ¥2857

ラフカディオ・ハーンとジェイムズ・トムソン ―「四季」をめぐる 先川暢郎 (元拓殖大学教授) ISBN 978-4-86110-285-1 ¥3333

新版文学にひそむ十字架 小出龍太郎 (大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 978-4-86110-354-4 ¥2800

小出龍重と谷崎潤一郎 ―小説「夢喰ふ虫」の真相 小出龍太郎・明里千章・荒川朋子 編 ISBN 4-86110-084-4 ¥2500

小出龍重 ―光の憂鬱 小出龍太郎 (大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 4-921146-34-9 ¥2200

ちよつと、教養 ―20代女性のための芸術案内 小出龍太郎 (大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 4-86110-008-9 ¥1600

自著を語る

浅井亜紀子

『天馬山 ―北朝鮮からの引揚げ者の語り』



私の父は、現在の北朝鮮とロシアとの国境近くにある港町、清津で生まれ、終戦の際、中学生の時に日本へ引揚げるとい難民の経験をしています。「昔の闇は思い出したくない」と言って、その時代のことを話したことはありませんでしたが、戦後70年が近づき、高齢になったこともあり、「異文化コミュニケーションの授業で、若い学生たちに戦中・戦後のことを話してみないか」と声をかけましたら、「いいよ」と言ってくれました。

1945年8月13日、ソ連軍が侵攻してきた時、祖父は家族自決を決め、父に「一緒に死のう」と言いました。でも、父は「私は生きたい」と答え、両親・妹と別れて一人山の中へ逃げたのです。その苦難の引揚げ体験を初めて聞いた私は、大きな衝撃を受けました。約200名の学生たちは、父の話によく耳を傾けてくれ、父のつらい決断に対して驚きと感動の感想文を書き綴ってくれました。

《自分が今、この先生の授業を受けることができるのは、このお父さんが「生きる」という決断をしたから》といういのちのつながりに感動したようです。

また学生たちは、清津中学校同窓会誌『天馬山』(北朝鮮や引揚げの思い出を掲載)を材料に、朝鮮での日本人と朝鮮人との関係、学校での日本人教師と日朝の生徒の関係など、多くのことを学びました。

今、北朝鮮に対しては、否定的な感情しか持っていない人が多いかもしれません。でも、表面的なステレオタイプでみてもいけないというのは、異文化コミュニケーションにおいて大事なことです。清津中学校では、日本の子どもと朝鮮の子どもはほぼ同等でした。『天馬山』の記録から、植民者と被植民者の二項対立的な関係では説明ができない、人間味のある関係がみえてきます。

歴史の教科書には登場しないごく一般の人々の歴史を知ること、歴史への多面的な理解を促すことができたらと思ひ、同窓会の方々のご理解を得て、一冊の本にまとめました。一人一人が平和を実現するために何が出来るかを考えるきっかけになれば、と願っています。(10頁に本の紹介)

AUTHOR

民話の森の歩きかた

樋口淳 (専修大学教授) ISBN 978-4-86110-273-8 ¥2381

テクストの思考—日本近現代文学を読む

林浩平 (詩人・東京女子大学特任教授) ISBN 978-4-86110-253-0 ¥3048

ハンリー・フィールディング伝

澤田孝史 (東京国際大学教授) ISBN 978-4-86110-231-8 ¥2286

ルーン文字の探究 ラルフ・W・V・エリオット著／古見昭徳 (明治学院大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-183-0 ¥4286

オーウェル文学の源流を求めて—その想像的創造力の源泉 高橋鍾 (宮崎大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-170-0 ¥2800

Essays on Dickens, Forster, Austen: A Japanese Reader's Appreciation 藤田永祐 (獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-388-9 ¥3000

中曼茶羅—古典に見る日本人の心象 岩下均 (目黒大学教授) ISBN 4-86110-004-6 ¥2800

Decoding Paul Muldoon: Poetics and Politics 奥田良二 (東海大学教授) ISBN 978-4-86110-176-2 ¥2500

見えないものを見る力—ケルトの妖精の贈り物 風呂本武敏 (元愛知学院大学教授) ISBN 978-4-86110-094-9 ¥2190

龍の星霜—異端の劇作家青江舜一郎 大嶋拓 (映画作家) ISBN 978-4-86110-274-5 ¥1500

法隆寺 青江舜一郎 (劇作家) ISBN 978-4-86110-225-7 ¥2800

鷗外・漱石—フレイカリズムの起源 大石直記 (明治大学教授) ISBN 978-4-86110-175-5 ¥5600

荒野へ 鮎川信夫と「新領土」 中井晨 (同志社大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-096-3 ¥9333

まに生きるイギリス小説 藤田永祐 (獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-154-0 ¥2200

平家物語—装置としての古典 高木信 (相模女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-139-7 ¥4600

英詩に魅せられ—エリオットからラーキンまで 堀田三郎・犬飼誠 共編 ISBN 978-4-86110-305-6 ¥2476

啓蒙と反動 青地伯水 (京都府立大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-362-9 ¥3000

啓蒙と反動 青地伯水 (京都府立大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-362-9 ¥3000

一人の詩人と二人の画家—D.H.ロレンスとニユーメキシコK.メリル著／木村公一、倉田雅美、伊藤芳子 訳 ISBN 978-4-86110-498-5 ¥4100

いなにも同然だった男 パトリック・ルコント 著／桑原隆行 (福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-458-9 一刷 ¥1800

愉しみは最後に パトリック・ルコント、ダヴィッド・デカンヴィル 著／桑原隆行 (福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-418-3 ¥1800

エドワード・トマス訳詩集 吉川朗子 (神戸市外国語大学准教授) 訳 ISBN 978-4-86110-429-9 ¥2000

スウェーデン民話名作集 4巻 数下紘一 (元駒澤大学教授) 訳 人々のさだめと神の救い、魔女や動物たちがおりなす魔法と幻想の世界。(IIは品切重版未定)

I ISBN 978-4-86110-246-2  
II ISBN 978-4-86110-339-1  
III ISBN 978-4-86110-368-1  
IV ISBN 978-4-86110-368-1 各巻 ¥1905



鎌倉三猫いまふたたび ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授) 小町、タマ吉、みなみの目くるめく冒険。「いつか長靴をはいた旅猫になってアビシニアに行くんだ」 半径五〇〇メートルの神秘の宇宙。 四六判上製・二五六頁 定価 (1500円+税) ISBN 978-4-86110-515-9



一人の詩人と二人の画家—D.H.ロレンスとニユーメキシコK.メリル著／木村公一、倉田雅美、伊藤芳子 訳 ISBN 978-4-86110-498-5 ¥4100

いなにも同然だった男 パトリック・ルコント 著／桑原隆行 (福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-458-9 一刷 ¥1800

愉しみは最後に パトリック・ルコント、ダヴィッド・デカンヴィル 著／桑原隆行 (福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-418-3 ¥1800

エドワード・トマス訳詩集 吉川朗子 (神戸市外国語大学准教授) 訳 ISBN 978-4-86110-429-9 ¥2000

# 翻訳ピンチ!

中条省平 SHOHEI CHUJO

18

## アザミは食べられるか?

翻訳をやっていることはいくらかありますが、異なった文化圏における風俗・習慣を表す言葉をどう表現するかにはいつも悩まされます。

以前、本欄で服飾用語の翻訳が難しいと語りましたが、食品関係、料理用語もそれに劣らず難しい場合があります。

早い話が日本語ではごく当たり前の言葉である「ざるそば」だって、これを知らない外国人に向けていう場合には、けっこうな困難が待ち受けています。「zarusoba」とかなんとか書いて注をつける手もありますが、ごく普通の文章のなかではこの「zarusoba」が妙に浮いてしまっていて、「なんとかしたい!」と頭を掻きむしりたくなるでしょう。

という、「ジャパニーズ・パスタの一種」は論外としても、英語のnoodleとかフランス語のnouilleとかはやっぱり「ざるそば」じゃないし、海苔をかけるとかかけないとかの訳注がやっぱり必要になるでしょうし、いやそもそも「海苔」だって何と訳せばいいのか?

……といった問題が数限りなく浮上してくるのです。

今回の問題は「アザミ」でした。プル

ーストのフランスコミック版の翻訳をやっているのですが、『スワン家のほうへ』のなかに、主人公の家の女中フランソワーズが料理の腕を揮うところがあって、そこにcardonという食材が出てくるのです。たいていの辞書には「カルドン」(まんまやんげ)と出ていますが、日本人でカルドンとって分かる人はまずいないでしょう。私も分かりません。

調べてみるとアーティチョークに似たものらしく、アーティチョークの和名は朝鮮アザミで、カルドンもアザミの一種。そこで旧版では日本人に親しみやすく「アザミ」としたのですが、今回、新たな編集者は、「あんなもの食べますか?」とツッコンできました。はい、たしかに。

新版では辞書どおり「カルドン」として、注で説明しましたが、なんだか情けない敗北感は拭えませんでした。(仏文学者)



イラスト: たけなみゆうこ

## 写真・音楽・芸術

### 利根川を往く

塙紘 (写真家 撮影)

暮らしの中にこそ詩があった。昭和四四年から六四年までの二〇年間、利根川とともに暮らす人びとの生活、風土を克明に記録。写真点数一五〇。写真集『九十九里浜』の小関与四郎氏の跋文を併録。A4判上製横長・二五六頁 定価 (4800円+税) ISBN 978-4-86110-503-6



物語らないアニメーション—ノーマン・マクラレンの不思議な世界 栗原詩子 (西南学院大学准教授) 実験アニメーションの先駆者ノーマン・マクラレン。映像全体に張り巡らされた話法・技法を注視し、彼の音楽的関心を探求する。 ISBN 978-4-86110-493-0 ¥3500

アンドレ・バザン—映画を信じた男 野崎欽 (東京大学教授) トリュフォーを監督として育て上げ、映画批評の金字塔『映画とは何か』を著したアンドレ・バザン。映画をこよなく愛する翻訳家・仏文学者による待望の映画論。 ISBN 978-4-86110-456-5 ¥2300

増補改訂器としての身体—土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ 三上賀代 (京都精華大学教授) 土方から直接教えを受け現在も舞踏をつづける著者が、稽古ノートと実体験をもとに土方巽・暗黒舞踏技法を解明する。 ISBN 978-4-86110-465-7 ¥3600

父のアルバム 伊藤巖、田中典子 (清泉女子大学教授) 娘の成長を写真と文で綴る。アルバムに残された家族の断片は、「昭和の家族」の姿を映し出す。今より「不便」だが不便とも思わなかった時代のささやかな記録が、大切な何かを教えてくれる。 ISBN 978-4-86110-467-1 ¥1800

# しりあがり寿 mini 大河 17 南蛮槍

戦いの時代にあって、あらゆる停滞は許されない。統治から軍略、ひとつひとつの兵器まで、敵を出し抜き優れたものを手にしたものだけが生き残る。

赤池弾正は、己の軍の近代化に余念がなかった。特に自らの武具甲冑は、織田も舌を巻くほど西欧化されたものだった。常に世界の新しいものを纏い戦うことが、己の軍の進歩を促し、世に赤池の先進性をアピールし、そして結局のところ自分の身を護る。

今回は槍だった。

「この穂先は？」  
それは見たこともない穂先だった。鈍く光った鋭い切先が螺旋を描き、小さいながら、一度敵を仕留めたら二度と取り逃がさないであろう凶暴さを秘めていた。  
「ポルトガルの宣教師より手に入れました。南蛮でどのように使用しているかははっきりしませんが、この禍々しさはいかなる敵をも屠る殿の槍先にピッタリでございます。」  
「うむ！ よし出陣じゃ。」

こうして赤池弾正は槍の先にネジネジのワインオープナーをつけて悠々と出陣した。



- ことばのポトラック  
大竹昭子 (作家) 編  
ISBN 978-4-86110-310-0 ¥1800
- クリス・ホルディック選 コシツク短編小説集  
石塚則子 (同志社大学教授) 他 編訳  
ISBN 978-4-86110-298-1 ¥3500
- イギリスの田舎を歩く ピーター・ミルワード 著／橋本修一 (千葉工業大学教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-311-7 ★ ¥1429
- アイリッシュ・ハーブの調べ ケルトの神話集  
マリー・ビーニー 著／大野光子 監修  
ISBN 978-4-86110-124-3 ★ ¥1800
- お爺ちゃんとお砲  
オタ・フィリップ 著／北岡武司 (岡山大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-446-6 ¥2500
- 人生の請求書  
石橋幸子 (春風社専務)  
ISBN 978-4-86110-410-7 ¥1300
- カフェの女主人  
レイモン・ジャン 著／桑原隆行 (福岡大学教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-356-8 ¥2200
- モーツァルトの息子  
ジャック・トゥルニエ 著／高井道夫 (元上智大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-242-4 ¥2200
- ハリの小鳥売り  
ロベール・ブラジヤック 著／高井道夫 (元上智大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-250-9 ★ ¥2200
- リヴァ・ヘラ パトリス・ルコント 著／桑原隆行 (福岡大学教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-280-6 ¥1905
- ショートカットの女たち パトリス・ルコント 著／桑原隆行 (福岡大学教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-277-6 ¥2000
- 空に上がったハイエナー ケニア・キクウの民話集 杜由木  
ISBN 978-4-86110-301-8 ¥1600
- カレワラ物語—フィンランドの国民叙事詩  
キルステイ・マキネン 著／荒牧和子 訳  
ISBN 4-86110-034-8 ¥1800
- 愛の叙事詩 バルタイヤン物語 ミシエル・ゼヴァロ 著／鈴木梯男 (神戸松蔭女子学院大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-223-3 ★ ¥2800
- フォアの国のことは—ベトナムを学び、ベトナムに学ぶ 富田健次 (元大阪大学教授)  
ISBN 978-4-86110-352-0 ★ ¥1905
- 横浜の時を旅する—ホテルニューグランドの魔法 山崎洋子 (作家)  
ISBN 978-4-86110-296-7 三刷 ¥1600
- 魔術師のたいい  
レーナ・ラウライヤイン 著／荒牧和子 訳  
ISBN 4-86110-075-5 ★ ¥1500
- みらいのゆくえ  
しりあがり寿 (漫画家)  
ISBN 978-4-86110-294-3 ¥1600
- マハーヴァギナまたは巫山の夢  
三浦衛 (春風社代表)  
ISBN 978-4-86110-342-1 ¥1957
- 父のふるさと—秋田往來  
三浦衛 (春風社代表)  
ISBN 978-4-86110-243-1 ¥1905
- 出版は風まかせ—おとぼけ社長奮闘記  
三浦衛 (春風社代表)  
ISBN 978-4-86110-193-9 ¥1300
- ヨコハマ ヨコスカ 暮末 ハリ  
飯島耕一 (詩人)  
ISBN 4-86110-040-2 ★ ¥2800
- 気がつけばアメリカ人—二つの祖国に生きて  
蒲生靖子  
ISBN 978-4-86110-392-6 ¥1500
- わしといたすらキルティーン  
マリー女王 著／長井那智子 (エッセイスト) 訳  
ISBN 978-4-86110-153-3 ★ ¥1800

- 【新版】北上川 橋本照嵩 (写真家)  
立松和平氏 (作家) 推薦！「近年の収穫といえる写真集である」。石巻市出身の(人物写真家)が、昭和30~40年代のふるさとの原風景と人々の暮らしを深い愛情と洞察をもって写し撮る。  
ISBN 978-4-86110-441-1 ¥3500
- 石巻2013.27—2014.5.29  
橋本照嵩 (写真家)  
宮城県石巻市出身の写真家が三年にわたり、震災後の故郷を撮影。被災地に住む家族、仮設住宅、現地の行事などのモノクロ写真一七〇点と撮影日誌。  
ISBN 978-4-86110-414-5 ¥4500
- ファニー・メンデルスゾーン—ヘンゼル—時代に埋もれた女性作曲家の生涯 ウテ・ビュヒター・レーマー 著 宮原勇 (名古屋大学教授) 監訳／米澤孝子 (演奏家・指揮者) 訳 女性に創作活動が許されなかった時代、溢れる才能と意欲に恵まれながら、弟の陰に隠れていた作曲家の生涯。ISBN 978-4-86110-421-3 ¥2300
- 長唄の世界へようこそ—読んで味わう、長唄入門 細谷朋子 (研究者)  
「越後獅子」など十五曲の歌詞とその現代語訳、語句解説を掲載。磨き抜かれた言葉から、日本の四季と情緒を味わう。長唄の基本を理解し、実際に鑑賞するための知識も収めた入門書。  
ISBN 978-4-86110-400-8 二刷 ¥3400
- 映画はやめる—パトリス・ルコント、自作を語る P・ルコント 著／H・プロロンジヨ聞き手／桑原隆行 訳 ISBN 978-4-86110-433-6 ¥3800
- クワラ解体  
小関与四郎 (写真家)  
ISBN 978-4-86110-261-5 ¥15000
- フェルナン・レジェ オブジェと色彩のユートピア—キュビズムからフランス人民戦線まで  
山本友紀 ISBN 978-4-86110-405-3 ¥4500
- かほちゃんの下で—ウガンダ戦争を生きた子と私たち 桜木奈央子 (写真家) 写真・文／伊藤氏 貴解説 ISBN 978-4-86110-259-2 ¥1800
- 世界写真紀行—美しい自然と文化を訪ねて (海外編・国内編) 渋谷興一  
ISBN 978-4-86110-409-1 ¥3500
- ドアの映画史—細部からの見方、技法のリテラシー 吉田暉 (京都産業大学教授)  
ISBN 978-4-86110-264-6 ¥1800
- 深読み映画論—『暗い日曜日』の記憶  
大野真 (大妻女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-198-4 ¥1905
- たたいいジャズ入門  
中条省平 (学習院大学教授)  
ISBN 4-86110-057-7 ¥1600
- 赤いレトロな焙煎機—遙かなる南米大陸をめざして  
玉川裕子 (ラジカル民族文化研究センター研究員)  
珈琲鑑定士資格取得のため単身ブラジルへ。私的な旅日記と短歌から垣間見られる作者の孤独、自己認識。跋文・岡井隆氏。  
ISBN 978-4-86110-495-4 ¥1500
- 詩集 輪郭のない自画像  
木端美人 くり返される日常の二歩歩／疲れたからだを煮沸する／湯船から今日二日の現実の旨味が／そそくさと煮こぼれた／……／季節、日常、精神、いきもの、幻覚、矛盾、それぞれの輪郭を求めた日々の思索。  
ISBN 978-4-86110-457-2 ¥2300
- デテムシ 新美南吉詩歌集  
石川勝治 (長崎県立大学名誉教授・斎藤卓志 (民俗学) 編 死と隣り合わせで生きた新美南吉は、いのちの深さと奇跡を心やさしく訴える。南吉の「マコト」をキーワードに選択し、時代順に配列した、珠玉の短詩形文学集。  
ISBN 978-4-86110-406-0 ¥1800
- 谷川健一全歌集 谷川健一 (民俗学者・歌人)  
歌人 民俗学者の歌業を集成。既刊歌集『海の夫人』『青水沫』『海境』の全作品にくわえ、未発表作を多数収録。独自の歌風によって詠い上げられる、見えざるものへの憧憬と祈り。 ISBN 978-4-86110-104-5 ¥3800
- たのしいジャズ入門  
寺島靖国 (ジャズ喫茶「メグ」店主)  
ISBN 4-86110-056-9 ¥1600
- アンヘリカを選択  
丸岡永乃 (画家・詩人)  
ISBN 978-4-86110-337-7 ★ ¥1800
- 君にシロツメクサの冠を  
丸岡永乃 (画家・詩人)  
ISBN 978-4-86110-336-0 ★ ¥1200
- ハブに染まるぜ！天才ジャズ本  
安原顯 (スーパーエディター)  
ISBN 4-921146-62-4 ¥2800
- フランス・ミュージカルへの招待  
渡辺諒 (早稲田大学教授)  
ISBN 978-4-86110-344-5 ¥2000
- 邦訳「カリヴァー旅行記」書誌目録  
松菱多津男 (公益社会長)  
ISBN 978-4-86110-276-9 ¥600
- OTHER VOICES 東大全共闘・68—70  
平沢豊 (編集者)  
ISBN 4-86110-026-7 ¥2800
- 風の想い—奈津  
松永澄夫 (立正大学教授)  
ISBN 978-4-86110-378-0 ¥1500
- 邂逅  
岩田澄江  
ISBN 978-4-86110-324-7 ¥952
- 詩集 獲(Spinning)のうた  
ISBN 978-4-86110-270-7 ¥1300
- 山桜花  
廣利千恵子  
ISBN 4-86110-077-1 ¥1429



## カメレオン

三浦衛 (春風社代表)

秋田方言満載の詩集。自在に色を変え、不意に突き刺さる、軽妙なことばの戯れ。本文は金属活字による活版印刷。  
跋文・佐々木幹郎氏。  
菊判変型 二六頁 定価 (2200円+税)  
ISBN 978-4-86110-473-2

観光

山ふたりー関東・尾瀬・熊野編
三輪敏広・三輪和恵
まさに山あり谷あり、予想外のトラブルもふたりなら楽しい。今回は、天城・丹沢、奥秩父、大菩薩嶺、武尊山・赤城山、武甲山、四阿屋山、両神山、尾瀬、谷川連峰など。

山ふたりー新潟・富山・福井・長野編
三輪敏広・三輪和恵
ふたりで山を歩いていけば、つらいことも病気のことも、すべて忘れて元気になる。夫婦で歩く山への旅。最終巻は、妙高連峰、雨飾山、権現岳、越後駒ヶ岳など。

山ふたりー鈴鹿・大峰・四国・山陰編
三輪敏広・三輪和恵
山夫婦が回った山の数々第4弾。三池岳、釈迦ヶ岳、雨乞岳、御在所岳などの鈴鹿山脈や大峰山脈、大台ヶ原、大山三瓶山、石鎚山、剣山などの記録。

突撃！よこはま村の100人ー自転車記者が行く
佐藤将人(神奈川県新聞記者)
ISBN 978-4-86110-316-2 ¥1500

瀬戸内、鳥瞰の旅ー風景の奥を読む
伊藤松雄(四国学院大学教授)
ISBN 978-4-86110-360-5 ¥1800

観光地の賞味期限ー「暮らしと観光」の文化論
古池嘉和(富山大学教授)
ISBN 978-4-86110-120-5 ¥1800

おぼさんへトナム留学記
中嶋弘子
ISBN 978-4-86110-297-4 ¥1500

おぼさんー辺境を行く
外川洋子
ISBN 978-4-86110-100-7 ¥1500

おぼさんー世界遺産を行く
外川洋子
ISBN 978-4-86110-249-3 ¥1500

おぼさんー豚となつて木に登る
外川洋子
ISBN 978-4-86110-398-8 ¥1500

環境・自然・健康

農の6次産業化と地域振興
熊倉功夫(静岡文化芸術大学学長) 監 米屋武文(静岡文化芸術大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-437-4 ¥2150

富士山への招待ーNPOが富士山と地域を救う
渡辺豊博(元都留文科大学教授)
ISBN 978-4-86110-229-5 ¥1500

失敗しないNPOーグラウンドワーク三島の20年とイギリスに学ぶ
渡辺豊博(元都留文科大学教授) 編著
ISBN 978-4-86110-353-7 ¥1500

世界の自然と暮らす
今井一郎(関西学院大学教授)
ISBN 4-92146-98-5 ¥1905

英和の森の植物たちー感じる、遊ぶ、食べる
中池敏之・川崎末美(東洋英和女学院大学教授)
ISBN 978-4-86110-321-6 ¥2600

コバタンの繁殖ー絶滅危惧種保存への挑戦
石川文也(日本鳥学会会員)
ISBN 978-4-86110-195-3 ¥2800

背骨ゆらゆら健康法ー自分でできるお手軽気功術
朱剛(禅密気功師)
ISBN 978-4-86110-127-4 ¥1200

気功瞑想でホッとする
朱剛(禅密気功師)
ISBN 978-4-86110-189-2 ¥1800

横浜市立大学新叢書

資料を見て考えるホロコーストの歴史ーヴァンゼー会議とナチス・ドイツのユダヤ人絶滅政策
ヴァンゼー会議記念館 編著/山根徹也(横浜市立大学准教授)・清水雅大(横浜市立大学客員研究員) 訳
ヴァンゼー会議記念館常設展示図録を訳出。ホロコーストの全貌を伝える。
ISBN 978-4-86110-461-9 ¥2000

韓国の財政と地方財政
鞠重鎬(横浜市立大学教授)
歴代政権別の経済財政運営、歳入や歳出に係わる主要指標から見た特徴、租税政策・社会保障政策。さらに日韓の類似点・相違点を明らかにし、政策評価を行う。
ISBN 978-4-86110-460-2 ¥3000

レリギオー(宗教)の起源と変容
三上真司(横浜市立大学教授)
ISBN 978-4-86110-452-7 ¥3000

日中間戦争と中国人文学者ー郁達夫、柯靈、陸蠡らめぐって
鈴木正夫(横浜市立大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-411-4 ¥3500

天狼俳句の英訳ー誓子・敏雄・綾子
古平隆(横浜市立大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-384-1 ¥3000

過去の再演を越えてー精神的分析的ロール・プレイング
川幡政道(横浜市立大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-374-2 ¥3000

読んで愉しむイギリス文学史入門
白井義昭(横浜市立大学名誉教授、立正大学教授)
ISBN 978-4-86110-372-8 二刷 ¥1500

普仏戦争ー籠城のバリ132日
松井道昭(横浜市立大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-373-5 ¥3000

立教大学人文叢書

人間精神の多彩な働きを考究する横断的人文学の試み。全五巻！

1 人文資料学の現在ー 浦野聡他 編著
ISBN 4-86110-063-1 ¥2200

2 文学の基礎レッスン 後藤和彦 編著
ISBN 4-86110-087-9 ¥2200

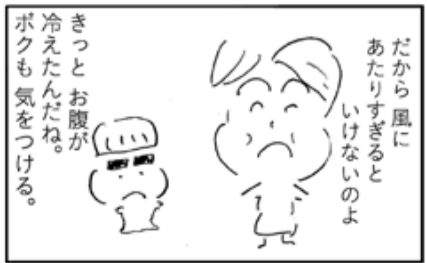
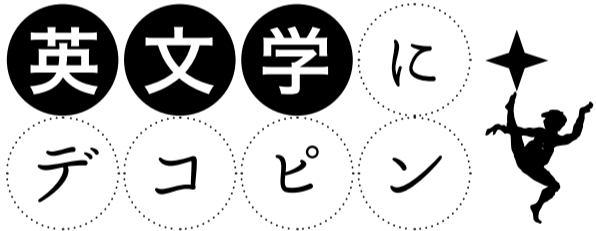
3 肖像と個性 藤巻明他 編著
ISBN 978-4-86110-138-0 ¥2200

4 人文資料学の現在II 菅谷憲典 編
ISBN 978-4-86110-163-2 ¥2200

5 書簡を読む 桑瀬章二郎 編
ISBN 978-4-86110-194-6 ¥2200

阿部公彦

5 西風さん



(英文学者)

東洋英和女学院大学 社会科学研究叢書



EU統合を読む 現代ヨーロッパを理解するための基礎
小久保康之(東洋英和女学院大学教授) 編著
EUはどのように発展してきたのか。歴史、経済から各国の最新事情まで、難民・テロ問題を考えるうえでも必読の一冊！
ISBN 978-4-86110-483-1 ¥2500

ネット空間を変えるモバイル社会
東洋英和女学院大学メディア・コミュニケーション研究所 編
ISBN 978-4-86110-444-2 ¥2500

グローバリゼーションとリスク社会
岡本浩一(東洋英和女学院大学教授) パトリシア・スイッセル(東洋英和女学院大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-403-9 ¥2500

総記・辞典・事典



ブラジル雑学事典
田所清克(京都外国語大学名誉教授)
いまブラジルがますます熱い！ 知ろう、学ぼう、感じよう！ ブラジル研究の第一人者であり、ブラジルを愛してやまない著者が、40年にわたるフィールドリサーチに基づき、生活・文化・社会などを子細に解説。この1冊でブラジルが好きなになる！！
A5判並製・四四八頁 定価(5000円+税)
ISBN 978-4-86110-496-1

異文化コミュニケーション事典
石井敏・久米昭元 編集代表
ISBN 978-4-86110-333-9 ¥7600

ニューシニア百科事典
エーシーランド学会 編
ISBN 978-4-86110-111-3 ¥9333

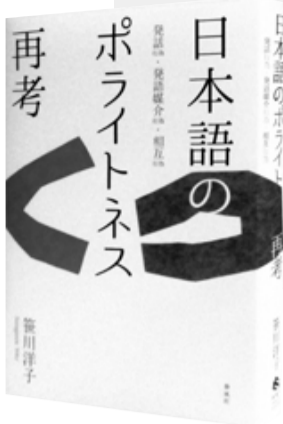
ダンテ神曲原典読解語源辞典(地獄)(煉獄)(天国)
福島治
ISBN 4-921146-77-2 ★
4-921146-78-0 ★
4-921146-79-9 ★
各巻 ¥46000

現代日本語モングル語辞典
橋本勝(大阪大学名誉教授) / E・プレブジャン
ISBN 4-921146-33-0 ¥15000

日本の英語辞書と編纂者
愛知大学文学會叢書 XI 早川勇(愛知大学名誉教授)
ISBN 4-86110-064-X ¥6600

スペイン語源辞典
太田強正(神奈川大学教授)
ISBN 978-4-86110-332-2 ¥5200





日本語のポライトネス再考

発行行為・発語媒介行為・相互行為

笹川洋子 (神戸親和女子大学教授)

グライスやオースティンの議論を参照しつつ、先行研究を批判的に継承。さまざまな言語文化圏における「依頼」「笑い」「共感」などを題材に比較・分析することで、会話における言語的配慮の諸相を探る。

四六判上製・三四四頁 定価(3500円+税)

ISBN 978-4-86110-502-9

Experimental Studies on Prosodic Features in Second Language Acquisition 伊庭緑 (甲南大学教授)

ISBN 978-4-86110-235-6

¥6600

Languages and Language Policies In Insular Southeast Asia 河原俊昭 (元京都光華女子大学教授)

ISBN 4-921146-64-0

¥5950

Indigenous Languages Revitalized?

松原好次 (元電気通信大学教授)

ISBN 4-921146-15-2

¥5524

はじめての論文—語用論的な視点で調査・研究する 田中典子 (清泉女子大学教授)

ISBN 4-86110-349-0

¥1800

The Pragmatics of Uncertainty

田中典子 (清泉女子大学教授)

ISBN 4-921146-22-5

¥5333

フラクマニクス・ワークシヨップ—身のまわりの言葉を語用論的に見る 田中典子 (清泉女子大学教授)

ISBN 4-86110-073-9

¥1800

L'interaction Exolingue : Analyse de Phenomenes Metallinguistiques 石川文也 (立教大学教授)

ISBN 4-921146-59-4

¥8476

La transmission des savoirs : une analyse dynamique du discours 石川文也 (立教大学教授)

ISBN 978-4-86110-302-5

¥5524

「俗語」から「国家語」へ—スペイン黄金世紀の言語思想史 岡本信照 (京都外国語大学教授)

ISBN 978-4-86110-291-2

¥3333

「いざ」発話の解釈理論—「会話目的達成スキーマ」による展開 萩原雅佳子 (明海大学教授)

ISBN 978-4-86110-160-1

¥4381

自由と尊厳を超えて

B・F・スキナー著／山形浩生訳

行動の原因を心ではなく環境に求め、よりよい世界を科学的に作りだすことを説く。心理学界に絶大な影響を与え、自由と尊厳の見方をくつがえした名著、待望の新訳!

ISBN 978-4-86110-341-4

¥2381

デイケアの心理学

浮田徹嗣 (横浜市立大学准教授)

ISBN 978-4-86110-306-3

¥3000

環境心理学—環境デザインへのパースペクティブ 榎究 (実践女子大学教授)

ISBN 4-86110-010-0

¥2286

ロール・プレイング—即興劇による人間の探求と治療 川幡政道 (横浜市立大学准教授)

ISBN 978-4-86110-155-7

¥2381

見捨てられる不安—家族と社会の現在 川幡政道 (横浜市立大学准教授)

ISBN 978-4-86110-158-8

¥2200

魂のかけら—ある物理学者の神秘体験 佐川邦夫

ISBN 978-4-86110-095-6

¥1800

教育実践の昭和

横須賀薫 (十文字学園女子大学学長)

国分一太郎、斎藤喜博、東井義雄。昭和の教育史に名を残す三人の「教育実践家」、そのカリスマ性の源泉を探る。圧倒的な影響力をもった三人の教育実践家の、カリスマ性の由つて来たところとは何だったのか。三者固有の領域と共通点を丹念に追いかけて未来へと繋ぐ渾身の論考。四六判並製・三四四頁 定価(2000円+税)

ISBN 978-4-86110-512-8



絵本から

「子ども福祉」を考える

青木文美 (愛知淑徳大学准教授) 編

子どもの育ちを支えるすべての大人に！現代の子どもはどんな環境におかれ、どんな問題をかかえているのか。子どもたちのためにまわりの大人ができることは何か。絵本から世界から、10のテーマを切り口に「子ども福祉」の視点を身につける、類例のない解説書。A5判並製・四三頁 定価(3400円+税)

ISBN 978-4-86110-514-2



英語学—現代英語をより深く知るため  
菊池清明 (立教大学教授) 編  
ISBN 978-4-86110-513-5 ¥1400

英語の名詞をきわめる—可算名詞と不可算名詞の使い分け 小林悦雄 (立教大学教授)  
ISBN 978-4-86110-470-1 ¥1800

ヘルバル語とティフィナク文字の基礎—タリー・フィート語 (Taffit) 入門 石原忠佳 (創価大学教授) ISBN 978-4-86110-394-0 ¥4286

英文法は役に立ちます!—英語をもっと深く知りたい人のために 古田直肇 (東洋大学専任講師)  
ISBN 978-4-86110-434-3 ¥2000

第二言語学習と個性 津田塾大学言語文化研究所言語学習の個性研究グループ編  
ISBN 978-4-86110-065-9 ¥1600

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis 鈴木憲夫  
ISBN 978-4-86110-114-4 ¥7619

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis II 鈴木憲夫  
ISBN 978-4-86110-300-1 ¥6667

フランス語時制論—発話行為のテキスト言語学 西村淳子 (武蔵大学教授)  
ISBN 978-4-86110-447-3 ¥3700

ジョンソンと「国語」辞典の誕生—十八世紀巨人の名言・金言 早川勇 (愛知大学教授)  
ISBN 978-4-86110-399-5 ¥2500

啓蒙思想下のジョンソン辞書—知の集成を目指して 早川勇 (愛知大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-380-3 ¥5000

英語のUGS 早川勇 (愛知大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-217-2 ¥1800

英語教育の精神と実践—コミュニケーションから英米文学まで 岡田善明 (日本大学講師)  
ISBN 978-4-86110-361-2 ¥1800

ビジネスドイツ語—レター&Eメールの書き方と例文 石居龍一 (コンサルタント)  
ISBN 978-4-86110-377-3 ¥1905

英語教育の実践—日本人のための英語学習論 小谷悠紀子 (東京電機大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-364-3 ¥3800

フェイリス相互作用理論—日本語学習クラスにおける相互作用からフェイリスワークを導く 横溝環 ISBN 978-4-86110-286-8 ¥4667

英語のルーツ 唐澤一友 (駒澤大学教授)  
ISBN 978-4-86110-283-7 ¥2000

YOKOHAMA

女性の努力を見せる場所

横浜ロック座 〒231-0065 横浜市中区宮川町 3-91  
http://yokohama-rockza.com/



京急日ノ出町駅すぐの「ストリップ浜劇」が、今年7月に「横浜ロック座」へとリニューアルした。

社長の松本和彦さんによれば、各地のストリップ劇場が減少している現在、最古かつ最大手の劇場「ロック座」の名前を残すための改名だという。約70年の歴史をもつ日本のストリップという文化を継承しつつ、時代に合わせて劇場のあり方を変えていく意気込みが現われている。

松本さんはストリップ劇場を「女性の努力を見せる場所」と呼ぶ。興行は10日間で区切られ、1日4回、5人の踊り子が順に舞台上に上る。それぞれの持ち味を活かした幅の広い演目で、衣装や小物も踊り子自身が用意する。「他のショービジネスは結果だけを見せる。しかしストリップでは努力も評価される」。劇場に通い、踊り子たちの変化や成長を観るのも楽しみの一つだ。

取材した週のトップスター・真白希実さんは、浅草ロック座で初めてストリップを見たときの衝撃を語る。「ステージ上でライトに照らされた女性の身体を見て、自分もやりたいと思いました」。踊り子は3年まで新人、10年で一人前と言われる世界。6年目の自分はまだ半人前だという。

数ある劇場のなかで、横浜ロック座の特色はまずその小ささにある。最前列の席では至近距離から踊り子の肌の質感や汗、息づかいまで感じることができる。場内の手拍子や拍手の一体感、アットホームさもこの劇場の魅力だ。リニューアルを機にオリジナル企画やテーマを設けた興行を次々と行い、新しい客の獲得にも力を入れる。

従来のストリップのイメージを払拭するためには、まず一度本物を見てもらうこと。そのひとつが、最近増えてきたという女性客だ。割安な女性料金に加え、女性優先席も新たに設置された。「女性客は人を誘ったり、SNSで拡散してくれたりする」と松本氏はその狙いを語り、踊り子たちも、同性に見て楽しんでもらえることを喜んでいる。

転換を迫られるストリップ劇場。横浜ロック座では、開かれたエンターテインメントを目指す意欲ある新社長、よりよいステージのために努力を惜しまぬ踊り子たちが、毎日笑顔で迎えてくれる。

現代の学校を読み解く―学校の現在地と教育の未来

末松裕基(東京学芸大学講師) 編著 ISBN 978-4-86110-504-3 ¥2300

日本統治下台湾の教育認識―書房・公学校を中心に 呉宏明(元京都精華大学教授) 台湾の伝統的な教育機関「書房」と、日本統治時代に日本語教育を推進する目的で設立された「公学校」の変遷を様々な資料から考察。占領期台湾の初等教育の実相を明らかにする。 ISBN 978-4-86110-505-0 ¥2500

世界初市民性教育の国家規模カリキュラム―20世紀初期アメリカN.E.A.社会科委員会報告書の事例から 渡部竜也(東京学芸大学准教授) 編著 20世紀初頭に合衆国で誕生した「社会科教育」。全米教育委員会(N.E.A.)が発表した二つの報告書を翻訳、その影響を論じる。 ISBN 978-4-86110-490-9 ¥4722

コモン・グッドのための歴史教育―社会文化的アプローチ リンダ・S・レヴステイク/キース・C・パトソン 著/渡部竜也・草原和博・田口絃子・田中伸訳 多様性を受け入れ、民主主義に参加するための歴史教育とは。教育にかかわる全ての人の。 ISBN 978-4-86110-445-9 ¥4000

教師のゲートキーピング―主体的な学習者を生む社会科カリキュラムに向けて S.J.ソーントン 著/渡部他訳 ISBN 978-4-86110-328-5 ¥2857

変革的知識人としての教師―批判的教授法の学びに向けて ヘンリー・A・シルー 著/渡部竜也訳 ISBN 978-4-86110-375-9 ¥3333

キリスト教人格教育論―個人の尊厳を見つめて 吉岡良昌(元東洋英和女学院大学教授) ISBN 978-4-86110-417-6 ¥2300

いのちを育む教育学 吉岡良昌(元東洋英和女学院大学教授)・大川洋(国際基督教大学上級准教授) ISBN 978-4-86110-143-4 ¥2200

日中教育学対話―III 勞凱声/山崎高哉 共編 ISBN 978-4-86110-159-5 ¥3200 / ISBN 978-4-86110-220-2 ¥2800 / ISBN 978-4-86110-248-6 ¥3200

私はどのような教育実践をめざすのか―言語教育とアインテイティ 細川英雄・鄭京姫 編 ISBN 978-4-86110-379-7 ¥2800

体当たり校長の学校づくり―8年間のニューズレター 横山芳春(豊見城市立座安小学校校長) ISBN 978-4-86110-340-7 ¥2381

子ども心にどう授業―三重県桑名市立藤が丘小学校における六年 伊藤新司 編著 ISBN 978-4-86110-326-1 ¥2381

海峽を越えて―京畿高等女学校の思い出 太田孝子(岐阜大学教授) ISBN 978-4-86110-157-1 ¥2200

母の愛が奇跡を生む―発達の違いに挑むライニング・ホックス学習法 立川勲 編 ISBN 978-4-86110-098-7 ¥1500

戦前 感性・教護実践史 佐々木光郎/藤原正範 ISBN 4-921146-18-7 ¥4800

昭和戦前期の少年教護実践史(上・下) 佐々木光郎 上 ISBN 978-4-86110-330-8 下 ISBN 978-4-86110-331-5 各巻 ¥3500

新版 生涯学習と地域社会教育 末本誠(神戸大学大学院教授) / 松田武雄(名古屋大学大学院教授) 編 ISBN 978-4-86110-234-9 ¥2476

学びを開くN.E.E.―新聞を使ってどう教えるか 影山清四郎(横浜国立大学名誉教授) 編著 ISBN 4-86110-080-1 ¥2381

ホストモダンの自由管理教育―スキゾ・キッスからマルチ・キッズへ 柳沼良太(岐阜大学大学院准教授) ISBN 978-4-86110-247-7 ¥2200

竹内レズン―ライブ・アット大阪 竹内敏晴(演出家) ISBN 4-86110-076-3 ¥2600

実感から関係化へ―ある重度重複障害者と関わり 遠藤司(駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-237-0 ¥2381

新版 教師養成教育の探究 横須賀薫(十文字学園女子大学学長) ISBN 978-4-86110-245-5 ¥2200

教育の経済―成り立ちと課題 三上和夫(神戸大学名誉教授) ISBN 4-8-6110-049-6 ¥3200

増補「いい子」の非行―家裁の非行臨床から 佐々木光郎(元静岡英和学院大学教授) ISBN 4-921146-91-8 ¥1800

デューイ：人間性実現への教育―米国力キラム開発を考える 海谷則之(龍谷大学名誉教授) 編 ISBN 4-921146-57-8 ¥2857

幼児キャンプ―雪の体験 山梨幼児野外教育研究会 監修 ISBN 4-921146-40-3 ¥1905

先生、いのちのことを教えて―引き揚げから養護教諭へ 引地ユリ ISBN 978-4-86110-269-1 ¥952

作法学の誕生 山根一郎(福山女学院大学教授) ISBN 4-921146-97-7 ¥2800

政治・経済

日中比較産業史―取引慣行と制度に見る戦前期日中経済の特質 四方田雅史(静岡文化芸術大学教授) ISBN 978-4-86110-486-2 ¥3700

近代政治思想の基礎―ルネッサンス、宗教改革の時代 クエンティン・スキナー 著/門間都喜郎訳 ISBN 978-4-86110-181-6 ¥7600

アメリカの対日通貨政策の形成―1971―2003年の日米通貨交渉を事例として 増永真 ISBN 978-4-86110-359-9 ¥2700

フランス帝国主義と中国―第一次世界大戦前の中国におけるフランスの外交・金融・商工業 篠永宣孝 ISBN 978-4-86110-136-6 ¥5714

世界金融危機日中の対話―円・人民元・アジア通貨金融協力 上川孝夫・李曉 編 ISBN 978-4-86110-203-5 ¥3500

党人 河野一郎―最後の十年 河野洋平 監修/小枝義人 著 ISBN 978-4-86110-212-7 ¥1714

戦争の読みかた―グローバル・テロと帝国の時代に 加藤朗(桜美林大学大学院教授) ISBN 978-4-86110-144-1 ¥2200

生命の経済学―生物学による経済学再構築 富森茂児(北海道大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-161-8 ¥2381

伊藤昌哉 政論 小枝義人(千葉科学大学教授/拓殖大学委員教授) ISBN 4-86110-085-2 ¥1700

「新自由主義」をぶっ壊す 青木育志(研究者) ISBN 978-4-86110-226-4 ¥1600

ポストモダンの処方箋

18 天皇制の論じ方 白井聡

要素として論じる議論は、ほとんど見当たらない(例外は、私の師である加藤哲郎氏の『象徴天皇制の起源』、および吉見俊哉氏の『親米と反米』における議論である)。天皇制を肯定するのであれば否定するのであれば、対米関係との関連において戦後の天皇制をとらえない限り、議論は空転せざるを得ない、というのが私の確信するところである。 今次の「お言葉」がはつきりさせたのは、この事実である。それは、異様な対米従属を無理矢理維持することによる「国民の統合」の破壊が明白になってきた情勢下で発せられた。「国民の統合」が現に存在しないならば、「統合の象徴」もあり得ない。ゆえに、対米従属レジームの危機は、そのまま象徴天皇制の危機でもある。この危機に対する介入として、「お言葉」はとらえることができるはずだ。ジョン・ダワーが戦後レジームを「天皇制民主主義」と名づけたことの意味が、いまや全面的に明らかになる現実が姿を現しつつあり、現代日本政治に対する分析の決定的な点がそこに懸っている。(政治学者)

突如として(と見えるかもしれない)、天皇制はアクチュアルな問題として再出現した。8月8日の今上天皇による生前退位の意向表明は、「平成の玉音放送」と呼ぶ人までいる。そう呼ぶに値する重要性を今後この発言が持つことになるのかはまだわからないが、次のような問題群が俄かに脚光を浴びることになったことは確かである。すなわち、象徴天皇制における天皇の行為は、どこまでが「非政治的なもの」として認められるべきなのか。皇位の継承を今後どのようにルール化するのか(女性・女系天皇の是非)。そして、最も端的には、象徴天皇制とは一体何なのか、という問いがわれわれの眼前に横たわっている。 『永続敗戦論』を書いて以来、私は戦後の天皇制論に対して、飽き足らないものを感じてきた。というのは、戦後日本の対米従属の異様性(米国は日本の永遠の保護者であるという妄想)を考察するためには、「天皇制」の概念を引き合いに出すのが最も適切であると感じられた。ゆえに、対米従属体制を「戦後の国体」であるとも規定したのである。しかし、戦後の天皇制研究において、対米関係を本質的な

社会・歴史



天馬山 北朝鮮からの引揚げ者の語り 浅井亜紀子(桜美林大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-519-7



インド・イスラーム王朝の物語とその建築 宮原辰夫(文芸春秋) 著 ISBN 978-4-86110-509-8

「幻の東京オリンピック」の夢にかけた男―日本近代スポーツの父・岸清一物語  
古城庸夫（江戸川大学准教授） 昭和初期、スポーツの普及と平和に半生を捧げた男が追い続けた「東京オリンピック開催」という壮大な夢。その偉業の、知られざる軌跡をたどる。  
ISBN 978-4-86110-484-8 ¥2000

オール・アバウト・ラブ―愛をめぐる13の試論  
ベル・フックス 著／宮本敬子（西南学院大学教授）・大塚由美子（北九州市立大学ほか非常勤講師）訳 全米ベストセラー、初の邦訳！消費社会のなかで消費できないものと出会う喜びを訴える。  
ISBN 978-4-86110-492-3 ¥2300

歴史教科書とナショナリズム―日本とドイツ  
原口健治（青山学院大学教授）  
ドイツの歴史教科書におけるナチズムを厳しく追及する記述は「自虐的」だろうか。歴史教科書問題の背景にある、国家・国民像とアイデンティティのあり方を考える。  
ISBN 978-4-86110-506-7 ¥2700

宝は田から―しあわせの農村民俗誌 山形県米沢 佐野賢治（神奈川大学教授）  
人々の「しあわせ」を願う学問であった柳田民俗学を継ぎ、山形県置賜地方に生きる人々の自然との対立、協調、共生の営みを描く。変わりゆく現代世界を見据えた民俗誌。  
ISBN 978-4-86110-507-4 ¥3500

先生、NPOって儲かりますか？―若者たちが地元で賢く生きる方法 渡辺豊博（元都留文科大学教授） 地方にはビジネスチャンスがあるってどういふこと？ NPOの伝道師「三島のジャンボさん」がお届けする、楽しく学べるNPOビジネス&地方創生論！  
ISBN 978-4-86110-480-0 ¥1389

今、田村明を読む―田村明著作選集  
鈴木伸治（横浜国立大学教授）編  
戦後横浜の「まちづくり」を担った都市プランナー・田村明。単行本化されていない論考のなから、都市やまちづくりに対する思考の軌跡を示す8編を精選。  
ISBN 978-4-86110-508-1 ¥2000

ケニアへかけた虹の橋―30年の国際ボランティア活動 NPO法人「少年ケニアの友」編 孤児院支援、医療検診、奨学金創設、洋裁指導、「かまぼこ」設置などの実践例のほか、国内でできる支援事例も掲載。NGO・NPO活動のヒント満載！  
ISBN 978-4-86110-485-5 ¥1833

北の商都「小樽」の近代―ある都市の伝記  
内藤辰美（山形大学名誉教授）  
明治国家の北方政策を色濃く反映した近代都市「小樽」は、いかにして形成され、発展そして衰退したのか？「国家」と「コミュニティ」という二つの視点からたどる。  
ISBN 978-4-86110-450-3 ¥3900

米国の沖縄占領と情報政策―軍事主義の矛盾とカモフラージュ 吉本秀子（山口県立大学准教授）  
米占領下の沖縄で米軍政府と米民政府が実施した広報宣伝活動の実態を明示。現代の情報社会に潜在する政治的宣伝と軍事的宣伝の問題を考察するための事例を提示する。  
ISBN 978-4-86110-451-0 ¥6500

ホストセリングを知っていますか？―日本の子ども向けテレビCMの実態 山下玲子、藤井達也 ISBN 978-4-86110-435-0 ¥3000  
変容するテレビニュースとキャスターの役割 深澤弘樹（駒澤大学准教授）  
ISBN 978-4-86110-432-9 ¥3400

婚姻連帯論と社会学―レヴィーストローズ、デュルケムをめぐって 門口充徳（成蹊大学名誉教授） ISBN 978-4-86110-423-7 ¥4900  
ヘリーと黒船祭―日米文化外交史 佐伯千鶴（北アバマ大学准教授）  
ISBN 978-4-86110-425-1 ¥2200

雛の誕生―雛節供に込められた対の豊穡 皆川美恵子（十文字学園女子大学名誉教授）  
ISBN 978-4-86110-439-8 ¥3800  
スイスの歴史ガイド グレゴワール・ナッペイ 著／藤野成爾 訳  
ISBN 978-4-86110-413-8 一刷 ¥1800

地域と越境―「共生」の社会経済史 内田日出海・谷澤毅・松村岳志 編  
ISBN 978-4-86110-407-7 ¥3500  
グレゴリオ・テ・セス・ヘステス・スペイン人宣教師が見た朝鮮と文禄・慶長の役 朴哲 著／谷口智子 訳 ISBN 978-4-86110-366-7 ¥4600

多文化組織の日本人リーダー像―ライフストーリー・インタビューからのアプローチ 石黒武人 ISBN 978-4-86110-322-3 ¥3000  
不思議フランス 魅惑の謎 藤野敦子（京都産業大学教授）  
ISBN 978-4-86110-401-5 一刷 ¥1800

マーケティング・テモクラシー―世論と向き合う現代米政治の戦略技術 平林紀子（埼玉大学准教授） ISBN 978-4-86110-387-2 ¥4600  
前川教授の人生 血液型。―血液型が信じられる34の理由 前川輝光（亜細亜大学准教授）  
ISBN 978-4-86110-396-4 ¥1500

保守のトント 中島岳志（東京工業大学教授）  
ISBN 978-4-86110-227-1 ¥1800  
変容する冷戦後の世界―ヨーロッパのリベラル・テモクラシー 永松雄彦・萬田悦生 編  
ISBN 978-4-86110-224-0 ¥2381

空間のエスノグラフィ―文化を横断する 川床靖子（大東文化大学名誉教授）  
ISBN 978-4-86110-367-4 ¥2700  
学習のエスノグラフィ―タンザニア、ネパール、日本の仕事場と学校をフィールドワークする 川床靖子 ISBN 978-4-86110-113-7 ¥2381

「敵国語」シャナリズム―日米開戦とアメリカの日本語新聞 水野剛也（東洋大学教授）  
ISBN 978-4-86110-258-5 ¥5200  
日系アメリカ人強制収容とシャナリズム―リベラル派雑誌と日本語新聞の第二次世界大戦 水野剛也 ISBN 4-86110-038-0 ¥4600

中心と周縁―タイ、天草、シカゴ 佐久間美穂（川村学園女子大学講師）・内藤辰美（山形大学名誉教授） ISBN 978-4-86110-369-8 ¥3500  
1920年代の日本と国際関係―混沌を越えて「新しい秩序」へ 杉田米行（大阪大学教授）  
ISBN 978-4-86110-262-2 ¥2500

ネットワーク社会と空間のポリテイクス―都市・モダニティ・グローバル化 シン 大澤善信 ISBN 978-4-86110-202-8 ¥2800  
頭山満と近代日本 大川周明 著／中島岳志 編・解説  
ISBN 978-4-86110-134-2 ★ ¥2200

ブラジルの都市問題―貧困と格差を越えて 住田育法（京都外国語大学教授） 監修  
ISBN 978-4-86110-173-1 ¥3619  
フランス革命を旅したイギリス人―リグビー博士の書簡より E・リグビー 著／川分圭子（京都府立大学准教授） 訳 ISBN 978-4-86110-171-7 ¥2381

太平洋問題調査会「1925〜1961」とその時代 山岡道男（早稲田大学准教授） 編著  
ISBN 978-4-86110-211-0 ★ ¥4600  
聖地と祈りの宗教社会学―巡礼ツーリズムが生み出す共同性 岡本亮輔（北海道大学准教授）  
ISBN 978-4-86110-315-5 ★ ¥5000

インクランドの地名―起源と歴史を訪ねて K・キヤメロン 著／吉見昭徳（明治学院大学名誉教授） 訳 ISBN 978-4-86110-290-5 ¥4286  
ラルテ・ヴェトラリア―17世紀初頭のガラス製造術 アントニオ・ネリ 著／日本ガラス工業学会 編 ISBN 978-4-86110-131-1 ★ ¥5000

表象のヴェネツィア―詩と美と悪魔 鳥越輝昭（神奈川大学教授）  
ISBN 978-4-86110-329-2 ¥2800  
イランとイスラム―文化と伝統を知る 森茂男（元大阪大学准教授） 編  
ISBN 978-4-86110-215-8 ★ ¥2381

貧困をどのように捉えるか―H・ガンスの貧困論 西村貴直（関東学院大学准教授）  
ISBN 978-4-86110-343-8 ¥3333  
黒人差別と国民国家―アメリカ・南アメリカ・ブラジル A・W・マークス 著／富野幹雄他 訳 ISBN 978-4-86110-107-6 ★ ¥6190

移行期ロシアの繊維産業―ソビエト軽工業の崩壊と再編 藤原克美（大阪大学准教授）  
ISBN 978-4-86110-317-9 ¥4000  
インターネット文化の諸相―グローバル化を生きぬく知的戦略 若林一平（元文教大学准教授） ISBN 978-4-86110-267-7 ¥3333

旅する対話―ディアスポラ・戦争・再生 姜信子（作家）・ザラ・イマーエワ（映像作家）  
ISBN 978-4-86110-350-6 ¥1800  
現在と性をめぐるとの試論―言語・社会・文学からのアプローチ 小玉亮子（お茶の水女子大学准教授） 編著 ISBN 978-4-86110-117-5 ¥1800

国際社会学の実践―国家・移民・NGO・ソーシャルビジネス 三橋利光（東洋英和女学院大学名誉教授） ISBN 978-4-86110-263-9 ¥2381  
京都の中のドイツ 青地伯水（京都府立大学教授） 編  
ISBN 978-4-86110-266-0 ★ ¥2200

国際社会学の挑戦―個人と地球社会をつなぐために 三橋利光（東洋英和女学院大学名誉教授）  
ISBN 978-4-86110-142-7 ¥2381  
19歳のライフデザイン 江戸川大学ライフデザイン学科 編  
ISBN 978-4-86110-125-0 ★ ¥1429

ヒトから人へ―一人前への民俗学 佐野賢治（神奈川大学教授）  
ISBN 978-4-86110-281-3 ¥2381  
台湾―メディア・政治・アイデンティティ 本多周爾（武蔵野学院大学大学院教授）  
ISBN 978-4-86110-216-5 ¥2381

刺青墨譜―なせ刺青と生きるか 斎藤卓志（民俗学者）  
ISBN 4-86110-053-4 ★ ¥2800  
山本真弓／序・佐々木幹郎（詩人）  
ISBN 4-921146-60-8 ★ ¥2200

僕らの解放前後―一九四〇―一九四九 柳宗範 著／白燦 訳／太田孝子 日本語校編  
ISBN 978-4-86110-164-9 ★ ¥2800  
かの冬、そして秋―僕の朝鮮戦争 柳宗範 著／白燦 訳／太田孝子 日本語校編  
ISBN 978-4-86110-256-1 ¥2800  
優冠―商業・軍事史的研究 太田弘毅（元東北女子大学准教授）  
ISBN 4-921146-51-9 ★ ¥13000

サステイナブルな社会を目指して 木村武史（筑波大学准教授） 編著  
ISBN 978-4-86110-141-0 ¥2381  
ガラスの文明史 黒川高明（元日本ガラス工業学会理事）  
ISBN 978-4-86110-172-4 ★ ¥4762

物権法概説 小泉健（ノースアジア大学准教授）  
ISBN 978-4-86110-221-9 ¥2800  
僕らの解放前後―一九四〇―一九四九 柳宗範 著／白燦 訳／太田孝子 日本語校編  
ISBN 978-4-86110-164-9 ★ ¥2800

世間師・宮本常一の仕事 斎藤卓志（民俗学者）  
ISBN 978-4-86110-156-4 ★ ¥2200  
保生大帝―台北大龍峒保安宮の世界 尾崎保子（元昭和女子大学准教授）  
ISBN 978-4-86110-105-2 ¥2800

京都の中のドイツ 青地伯水（京都府立大学教授） 編  
ISBN 978-4-86110-266-0 ★ ¥2200  
刺青墨譜―なせ刺青と生きるか 斎藤卓志（民俗学者）  
ISBN 4-86110-053-4 ★ ¥2800

19歳のライフデザイン 江戸川大学ライフデザイン学科 編  
ISBN 978-4-86110-125-0 ★ ¥1429  
ヒトから人へ―一人前への民俗学 佐野賢治（神奈川大学教授）  
ISBN 978-4-86110-281-3 ¥2381

台湾―メディア・政治・アイデンティティ 本多周爾（武蔵野学院大学大学院教授）  
ISBN 978-4-86110-216-5 ¥2381  
刺青墨譜―なせ刺青と生きるか 斎藤卓志（民俗学者）  
ISBN 4-86110-053-4 ★ ¥2800

山本真弓／序・佐々木幹郎（詩人）  
ISBN 4-921146-60-8 ★ ¥2200  
僕らの解放前後―一九四〇―一九四九 柳宗範 著／白燦 訳／太田孝子 日本語校編  
ISBN 978-4-86110-164-9 ★ ¥2800

かの冬、そして秋―僕の朝鮮戦争 柳宗範 著／白燦 訳／太田孝子 日本語校編  
ISBN 978-4-86110-256-1 ¥2800  
優冠―商業・軍事史的研究 太田弘毅（元東北女子大学准教授）  
ISBN 4-921146-51-9 ★ ¥13000

## 本屋に行こう

増田書店 〒186-0004 東京都国立市中1-9  
TEL 042-572-0262 Twitter: @kunitachimasuda



### 地下に広がる専門書の森

一橋大学や桐朋中学・高校など、多くの教育施設が集まる東京都国立市。駅を降り、まず目に入るのが、真っ直ぐに伸びた広い並木道だ。春は桜、秋は銀杏が目を楽しませる、緑多い「大学通り」に面した一角に増田書店はある。売り場は1階と地下。1階は一般書や雑誌が主だが、この書店の特徴はなんといっても地下の棚だ。児童書、参考書、漫画などとともに、専門書、評論、全集類がズラリと並び。

「ある版元さんに言わせると『これ、趣味のフロアですね』って」と笑うのは、増田匡賢さん。17年前、お父様の秋賢さんの後を継ぎ書店社長となった。

昭和23年開店の増田書店の発端は、秋賢さんの蔵書だそう。「戦後、一橋大学に学会とかで人が来るでしょ。父曰く、都心は空襲で焼けて本がないと。で、学費の足しに、ためしに蔵書を軒先に並べたら、えらい売れちゃったっていう」。

地下の棚も、岩波書店やみすず書房が好きな秋賢さんの代から変わらない。こういった専門書類は飛ぶようには売れないそうだが、常連客の好みを飲み込んだ従業員が「この本を入れれば、あの人は買っていかも」と、なかば“決め打ち”で仕入れることも多いとか。地元長く根差す書店ならではの販売方法だ。

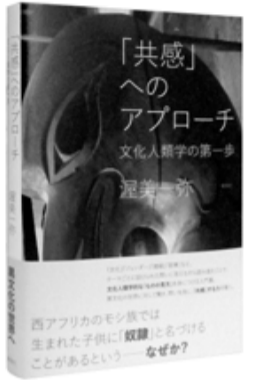
書店の未来を考えるうえで、「下の世代を育てていかないと」と匡賢さん。若い世代は、インターネットで本を入手する人も多い。だが、ネット購入と違い、本屋を訪れるということは、目指す本以外の物も目にするということ。そこから思わぬ枝葉が広がる場合もある。「だから、そういう棚にしなきゃだめなんだよね。来てくれる人にいろいろな“選択肢”を提供できるような」。

読者を深い世界へと誘う専門書や全集が、文芸書や児童書と等しく顔を揃える増田書店。この地下のフロアを起点に、これからも、さまざまな“選択肢”との出会いが生まれていくだろう。

### BOOKSTORE

人類学

「共感」へのアプローチ  
文化人類学の第一歩  
渥美一弥 (自治医科大学教授)



「文化」「婚姻」「医療」など、テーマごとに設けられた問いに答えながら読み進むことで、文化人類学的な「ものの見方」を身につける入門書。異文化の世界に対して自ら問いを発し、「共感」する力を養う。  
四六判並製・一九六頁 定価(2000円+税)  
ISBN 978-4-86110-497-8

霊媒のいる街―北タイ、チェンマイの宗教復興 福浦一男 (滋賀医科大学非常勤講師)  
人々は何を求め霊媒のもとへ通い、霊媒たちは何のために日々集まり踊るのか。詳細なフィールドワークにより、現代社会における民間宗教の役割を明らかに。  
ISBN 978-4-86110-489-3 ¥4000

〈紛争〉の比較民族誌―グローバル化におけるオセアニアの暴力・民族対立・政治的混乱 丹羽典生 (国立民族学博物館准教授)  
編著「平和的な南太平洋」という神話はなぜ崩壊したか。オセアニア各国の政治的変動・諸問題を分析する。  
ISBN 978-4-86110-482-4 ¥3700

つながりの民族誌―中国摩梭人の母系社会における「共生」への模索 金繩初美 (西学院大学教授)  
「妻問い婚」を維持する中国少数民族・摩梭人。「共生」という視点から社会と人々の意識の変化を捉え、母系社会構造の全体像を探る。  
ISBN 978-4-86110-487-9 ¥5000

実践と感情―開発人類学の新展開 関根久雄 (筑波大学教授) 編  
中南米などの途上国における開発や近代化の実践の過程で生じる関係者たちの「感情」を切り口に、開発実務者と現地住民の現実に迫る新しい開発研究。  
ISBN 978-4-86110-469-5 ¥5500

現代アジアの宗教―社会主義を経た地域を読む 藤本透子 (国立民族学博物館助教) 編  
カザフスタン、モンゴル、カンボジアなど社会主義政策を経た地域では、なぜ宗教が(再)活性化するのか。社会と宗教の関係問い直す論集。  
ISBN 978-4-86110-453-4 ¥4200

ヘラジカの贈り物―北方狩猟民カスカと動物の自然誌 山口未花子 (岐阜大学助教)  
カナダの狩猟民と共に暮らし、狩りをし、肉を解体して食べた研究者が、動物との接し方や人と動物との関係を改めて考える民族誌。  
ISBN 978-4-86110-383-4 ¥3200

Social Development, Culture, and Participation 阪本公美子 (宇都宮大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-174-8 ¥6476  
Dominio provincial en el Imperio Inca 渡部森哉 (南山大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-431-2 ¥4630  
Estructura en los Andes Antiguos 渡部森哉 (南山大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-371-1 ¥5714

インカ帝国の成立―先スウェーデン期アンデスの社会動態と構造 渡部森哉 (南山大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-205-9 ¥7619  
増殖するシャーマン―モンゴル・ブリアートのシャーマニズムとエスニシティ 島村一平 (滋賀県立大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-299-8 ¥7500  
The Roots Seekers: Shamanism and Ethnicity among the Mongol Buryats 島村一平 (滋賀県立大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-397-1 ¥6667

エコトリスムの民族誌―北タイ山地民力への生活世界 須永利博 (獨協大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-327-8 ¥4600  
「精霊の仕業」と「人の仕業」―ホルネオ島力リス社会における災い解釈と対処法 奥野克巳 (立教大学教授)  
ISBN 4-86110-000-3 ¥6476

ダワー・タンサニア、反乱と治療をもたらす謎の概念 岩崎明子 (文化人類学者)  
ISBN 978-4-86110-389-6 ¥3333  
ナショナリズムと宗教―現代インドのヒンドゥー・ナショナリズム運動 中島岳志 (東京工業大学教授)  
ISBN 4-86110-048-8 ¥3619

帝国医療と人類学 奥野克巳 (立教大学教授)  
ISBN 978-4-86110-062-3 ¥2190  
精霊の子供―コモロ諸島における憑依の民族誌 花湖馨也 (北海道医療大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-031-3 ¥6476

癒しと呪いの人類学 (第二版) 板垣明美 (横浜市立大学准教授)  
ISBN 978-4-921146-86-3 ¥2800  
ウエトナム―変化する医療と儀礼 板垣明美 (横浜市立大学准教授) 編  
ISBN 978-4-86110-145-8 ¥2381

ハワイ人とキリスト教―文化の混濁とアイデンティティの再創造 井上昭洋 (天理大学准教授)  
一九世紀から現在までの政治、歴史に触れつつ、ハワイ人の宗教文化に現地の内側から焦点をあてる。ハワイ人の民族的アイデンティティを読み解く。  
ISBN 978-4-86110-426-8 ¥2700

シリーズ  
来たるべき人類学 (全五巻)



1/セックスの人類学 奥野克巳・椎野若菜・竹ノ下祐二編 イルカやサル性の生活から、セックス儀礼、SM、性転換、ペニスピンまで、フィールドワークを通じて動物と人間の性に肉薄。その多様性に驚き、あきれ、考え込む。  
ISBN 978-4-86110-180-9 ¥1905

2/経済からの脱出 織田竜也・深田淳太郎編 われわれは何に囚われているのか? 「危機」から経済の彼方へ。生命、市場、時間、貨幣、感情、宗教、贈与、古代、環境、プリコラージュ。新たな知が、危機のなから姿を現す。  
ISBN 978-4-86110-200-4 ¥2381

3/宗教の人類学 吉田匡典・石井美保・花湖馨也編 「理解」がたいのに、わたしたちに影のように寄り添っている「宗教」を解きほぐす。改宗、顕示的消費、憑依、呪物、アニミズムなどをフィールドから得た知見をもとに論じる。  
ISBN 978-4-86110-247-9 ¥1905

4/アジアの人類学 片岡樹・シンジルト・山田仁史編 アジアの捉え方、フィールドワーク論から始まり、「焼畑」「牧畜」「狩猟採集」「漁撈」「モノ」「親族」「ネットワーク」「ヨーロッパの中のアジア」など、人類学の視点でアジアを捉える。  
ISBN 978-4-86110-357-5 二刷 ¥2381

5/人と動物の人類学 奥野克巳・山口未花子・近藤秋編 こんにな深くて広い、人と動物の関係! ヘラジカと話す男、ゴリラに「なる」人間、狩猟者に身を捧げたウサギ: ペットや家畜としてだけでなく、多様な人と動物の関係を探る。  
ISBN 978-4-86110-325-4 ¥2381

刊行予定 (タイトルは仮)

特別企画  
▼コミュニケーション事典 編集委員: 伊藤守、小泉秀樹、三本松政之、似田貝香門、橋本和孝、長谷部弘、日高昭夫、吉原直樹 (二〇一七年四月)

▼随想 京都学派の歴史哲学 小野寺功▼新版 地の哲学 小野寺功▼仏教儀禮の研究 岩松浅夫▼よく生きるための死生観 岩崎大▼教えること  
の哲学 小澤龍司▼カントの人権思想 菅沢龍文▼山根雄一郎▼カントの人権思想 菅沢龍文▼デカルトによる修練の哲学 津崎良典▼古代ギリシアの死生観 木原志乃▼法華経諺解 河瀬幸夫▼哲学的断章 北岡崇▼ブレイ・マルクス庭園の美学 荒井芳廣▼立正哲学(はたらく)へのしむ 立正大学文学部哲学科編▼キルケゴール 河上正秀▼翻訳と倫理 静岡大学翻訳研究会▼新井奥選集 コールダニエル▼キャサリン・マンズフィールドを読む 手塚裕子▼カポティ小説の詩的特質 大園弘▼フイネガンズ・ウエイク 奥田良二▼Contemporary Irish Plays 佐竹晶子▼文学都市ダブリン ゆかりの文学者たち 木村正俊編▼ポール・ボウルズ論 外山健二▼「土佐日記」の言説研究 佐藤美弥子▼左伝の女たち 尾崎保子▼荒野へ 中井農▼文学という名の愉楽 寒河江光徳▼アグリマスに魅せられて 大月和彦、深田晋一▼ペーオウルフ 吉見昭徳▼イギリス文学における都市と身体 武田美保子▼中央ヨーロッパ 歴史と文学 桂元嗣▼ヨーロッパ文学を考える 小川公代、吉村和明、村田真一編▼世紀末の長い黄昏 宗洋▼スコットランド、一八〇三年 安藤潔▼リュジェリーの秘密 宇多直久▼バルザックの文学とジェンダー 東辰之助▼表象の京都 須川まり▼糸道吉住小三代▼写真集 母のアルバム 田中典子▼フランス語活用辞典 石川三千夫▼暮らした日本語(スペイン語版) 長谷川哲子▼暗記嫌いのためのロジカル英語入門 佐藤美弥子▼視覚スキーマを用いた意味拡張動機づけの分析 栗田奈美▼自律のための教育学 大川洋▼薙刀と学校教育 井上アヤ子▼野の学校 佐々木光郎▼真正な学力 渡部竜也、堀田諭記▼遠藤の他者と教育 橋本憲幸▼現代中東政治学 末近浩太▼

▼宗教紛争とコミュニケーション 近藤光博▼中国興業銀行の崩壊とその再建 篠原宣孝▼経済学入門 木下富夫▼社会学的システム理論の軌跡 赤堀三郎▼エッセイ風都市社会学 吉瀬雄一▼イラン人とは誰のことか 八尾節範、坂梨祥、斎藤正道記▼東亜連盟運動と石原莞爾 内村琢也▼戦後小樽の軌跡 内藤辰美、佐久間美穂▼韓国の地方民家 佐々木史郎▼アジア中心市街地再生の最新線 鈴木伸治▼益裁 川崎仁美▼杉原千畝 小谷野裕子▼ミットフォードと釈尊 大西俊男▼「親子」とは何か 梅津綾子▼医療制度改革の比較政治 石垣千秋▼都市近隣組織の発展過程 大内田鶴子▼インド・剥き出しの世界 田中雅一編▼ドイツの難民支援から学ぶ 松原好次他

春風掃人

講演と対談をお願いした装丁家の桂川潤さんから、本は棺に納められるが、電子書籍は入れられない、クラウド環境にあって初めから向こう側の世界のものだからと伺ったことがある。「文は人なり」とすれば、文がのっている媒体が本であり、本は人と同様にいのちがあることになるだろう。やがて色褪せ、朽ちて無くなるのはいいのだし、だから愛おしいともいえる。

バルキー・ペーパー(高高級)という紙がある。洗濯に用いる柔軟剤からヒントを得たらしく、製造過程で空気を入れ込み、厚み(嵩)をだす。嵩張る割に持ち重りがしない。大昔から紙が好きで、風合い、手触り感を大切にしている日本人ならではの発明品だ。

電子書籍元年が声高に叫ばれた時、ある高名な作家は、あと数年で紙の本は電子に替わるから、その準備を版元も書店もくれぐれも怠りなさいよ、という主旨の提言を行ったが、予想は大きく外れ、紙と電子が補完し合う形となり、しばらく続きそうだ。

金属活字が出来ていたにもかかわらず木版印刷にこだわった歴史もある。何に美しさを見、価値を置くかは容易に決められない。(三)

春風新聞 第一九号 二〇一六年一〇月二日発行  
発行者: 三浦衛 発行所: 春風社  
印刷: シナノ書籍印刷